る者おの〳〵一人。

文恭院殿御實紀卷卅七 文化元年七月に始り十二月に終る

○七月朔日月次の賀例のごとし。松平主殿頭忠馮。安部攝津守信亨參覲す。松平山城守信愛。松平彈正忠正升。小笠原信濃守長禎。本多大和守忠居は坂城加番命ぜられ暇たまふ。松平周防守康定はじめ。就封のいとまたまはるもの三人。賜物舊におなじ。樂宮の御迎として暇たまはるもの。留守居松浦越前守信桯。　御臺所用人東條信濃守長祇。目付土屋帶刀直廉。使番石野新左衛門廣溫はじめ所屬の輩尚多し。賜物差あり。又長崎奉行肥田豐後守頼常賜物舊に同じうして赴任の暇下さる。箱館奉行戸川筑前守安倫歸謁す。大番頭高木主水正正剛。細川長門守興德坂城在番の暇たまふ。與頭番士も同じ。賜物舊規の如し。○三日　臺の上用達鈴木五郎兵衛春祥天守番の頭となり。鷹師山川仁右衛門定直同じ與頭となる。この日增山備中守正寧父致仕雪齋常々不愼の義に相聞。不埒の事により急度愼あるよしを。大目付井上美濃守利恭して傳ふ。○三日那須衆福原內匠資明子久米吉。寄合小倉相模守正眞子式部正幸はじめ。父死して家つぐ者十人。○四日七夕の御祝として。日光門主使して二種一荷をまいらす。○五日播磨國小野領主一柳土佐守末英病によて致仕す。所領一万石はその子隼人末昭に

增山正賢身持不愼により譴責謹愼を命ず

一柳末英致仕

つがしむ。この末英は

小笠原忠苗致仕

○六日七夕の御祝として。三家の方々始め。例の輩使して鯖料を進らす。大番石黑十郎左衛門敬勝同じ與頭となる。○八日東叡山　浚明院殿靈廟に青山下野守忠裕代參す。○十日大塚護持院高隆初瀨小池坊住職となさる。○十二日三緣山　惇信院殿靈廟に牧野備前守忠精代參す。寄合指揮せし佐藤修理信顯小普請組支配となる。越後瀧谷慈光寺隱居惠揩越生龍穩寺住職となる。○十四日紅葉山　諸廟に御詣あり。東叡山　至心院殿靈牌所に御側平岡美濃守頼長代參す。此日大雷。都下卅七ヶ寺に震すといふ。不朽雙紙○十五日盂蘭盆會により。東叡三緣兩山に御使して施物例の如し。表右筆田丸新左衛門直純田安邸小十人頭命ぜらる。○十六日先手筒頭間宮友三郎光德捕盜加役の事病免す。戸川大學達旨盜賊考察の事明の年の七月まで勤よと命ぜらる。○十七日紅葉山　御宮に青山下野守忠裕代參す。奥詰醫堀本好安元悌奥醫となり。廩米二百俵。官料百俵下さる。奥日記○十八日疊奉行河田安右衛門秉彛は書物奉行。作事の下奉行橋本忠左衛門は疊奉行命ぜられ。安右衛門秉彛は永く拜謁の列に入るべしとなり。○二十日豐前國小倉城主小笠原右近將監忠苗病により致仕の請をゆるさる。所領十五萬石は其養子伊豫守忠固に繼しむ。この忠苗實は信濃守長逵が第二子にして。幼名を保三郎といふ。明和九年の三月八日嗣子にさだめられ。安永二年十一月朔日はじめて　浚明院殿を拜し奉り。その冬從五の下して伊豫守に任じ。寛政三年正月廿

植崎政由政務を誹譏せるを以て鳥居忠蘂に預けらる

田沼意定卒

九日襲封し。その年十二月十六日從四位下に叙し。同じ月十八日右近將監と改め。同十一年の冬侍從にすゝみ。このとし七月廿日在所におゐて致仕し。同十月六日左京大夫に改め。同じ五年二月廿日卒す。とし六十三。又さらに伊豫守忠固をめして。右近將監忠苗は家事の示方とゞかずといへどもこたび致仕をも乞しにより。持旨もてその沙汰に及ばれず。今忠固は家讓りたるはじめなれば。よろづに心いれ沙汰せよと老臣して傳へらる。代官篠山十兵衛景義年久しく精勤を賞せられて。布衣の士にくはへらる。○廿二日裏門切手番の頭平岡彥兵衛民休病をもて職を辭す。○廿三日小普請植崎九八郎政由御政務の事ども建白し。その他輕からざる儀まで申觸し不屆なるをもて。鳥居丹波守忠蘂に預しめらる。○廿四日東叡山　孝恭院殿靈廟に少老堀田攝津守正敦代參す。○廿五日書院番頭近藤淡路守政明病免して寄合となる。寄合大久保喜右衛門忠官子主殿忠興。大前孫兵衛房明子熊次郎房諷。岩田平十郎定功子兵之助定達はじめ。父致仕して子家つぐもの二十一人。孫兵衛房明は養老料二百苞を下さる。○廿六日陸奥國下村の領主田沼主計頭意定卒す。嗣子なきにより。請ふまゝに祖先主殿頭意次が四子田代玄蕃意正をして遺領一萬石をつがしむ。この意定實は支封能登守意致の第二子にして。幼名は幾之助といふ。享和三年十一月四日嗣子の日襲封し。其月十五日はじめて　文恭院殿に拜謁し。その冬從五位下に叙し主計頭と稱し。このとし七月廿六日卒せり。年二十一。新番窪田主水正愷同じ與頭となり。西城表臺所頭江

松平定國の事蹟

見新五郎政久同城御膳所同職となる。西城小十人與頭澤井文大夫茂方老免して褒金あり。田安邸の用人に准じたる長柄奉行中島傳右衛門正信病により職ゆるさる。○廿八日月次の賀例のごとし。奥平大膳大夫昌高はじめ參覲のもの三人。青山大膳亮幸孝就封のいとま下さる。一柳隼人末昭家つぎしを謝して物獻る。本多越中守忠誠子正之進忠知初見したてまつる。目付土屋長三郎正備は豐前國小倉よりかへり謁し。使番坂本小大夫直諒。小姓組榊原隼之助忠之は大坂目付にさゝれ暇下さる。賜物恒例の如し。初瀨小池坊。越生龍穩寺共に東卷獻じ住職を謝す。○八月朔日當賀例の如し。○二日伊豫國松山城主松平隱岐守定國卒せしかば。其子立丸定則へ所領十五萬石をつがしむ。此定國は明和五年十月廿二日故隱岐守定靜の養嗣となり。實は田安黄門宗武卿の第六子にして。幼名豐丸といふ。同じき八年八月十五日　浚明院殿を拜み奉り。安永元年十二月十八日從四位下中務大輔と改め。八年八月晦日封襲ぎ。その年九月十一日隱岐守と改稱し。十一月朔日溜間に候し。十二月侍從に進み。天明五年四月七日廩米千俵を庶流小納戸小十郎定胤に增與へ。寛政六年四月十五日　左少將に昇り。皇后入内御使賞。ことし六月十六日卒す。歳四十八。○三日水尾兩卿及び水世子へ御鷹の告天子をつかはさる。又使番して松平越前守治好父致仕左兵衛督重富はじめ。雲雀下さるゝもの七人。父死して家つぐ御家人五人。○四日小普請山田保太郎。鈴木政之助正丈。三宅内藏助。阿久津丑助直内表右筆となり。吉田貞之助端商。大久保佐十郎。小林鐵太郎政

留守居役以外の者を以て勤向等に關し又は掛合ふ事を禁ず

武西丸表右筆となる。この日松平左京大夫頼啓はじめ。使番して雲雀下さるゝもの七人。○五日那須衆一人いとま下さる。小姓組番頭津田山城守信久書院番頭となり。西城小姓組番頭戸田出羽守光弘小姓組番頭となる。小普請組支配渡邊平十郎久西城小姓組番頭となる。水戸黄門より初鮭一尺進らせらる。この日伊達遠江守村壽はじめ雲雀賜はる者五人。又奥にて老臣に同じ品を下さる。○六日羅漢寺のほとりへ成らせらる。御拳は燕雀なり。大川の邊にて從士の水泳を御覽あり。○七日尾張中將齊朝卿のもとに御側岡部因幡守長貴御使す。こは聖聰院尼故中將治行卿北の方。のかたかくれさせ給ひしによてなり。西城よりも御懇詞あり。○八日東叡山　浚明院殿靈廟に戸田采女正氏教代參す。尾張中將の方に奏者番内藤豐前守信敦御使して。香銀三十枚をおくらせらる。○十日釋奠により今朝御側大久保豐前守忠溫代參し。太刀馬資金一枚薦めらる。小姓組長半四郎信政老免して小普請に入り褒金を賜ふ。○十二日三緣山　惇信院殿靈廟に青山下野守忠裕代參す。けふ令せらるゝは。すべて諸家より主人の勤務にかゝはりたる事を問はかり。及び掛合の事は。留守居役の者を以て申聞べきに。頃日留守居役にもあらざる者を用向のおり〳〵出す族もあるよしなり。平常の事に。かゝる事此後なすべからずとなり。○十三日西城少老松平能登守乘保本城にうつる。よてその事上直布衣以上の輩へ牧野備前守忠精これを傳ふ。○十四日留守居駒木根大内記政永。小普

奏者番青山幸完西丸若年寄に任ず

牧野宣成致仕

請奉行有田播磨守貞勝は。二丸後閣長局新たに營作つとめしによて。時服あるは黄金そへて賜ひ。其他所屬の輩金銀賜物差あり。材木石奉行鳥居八右衛門正恒裏門切手番の頭となさる。○十五日月次の賀例のごとし。松平立丸定則襲封を謝して見えたてまつり。金に綿そへて獻る。大久保山城守忠喜はじめ參覲のもの七人。堀田大藏少輔正順はじめ就封のいとまたまはる者七人。使番奥山八十五郎良恭賜物舊のまゝにして。駿府目付にさゝれいとま下さる。奏者番青山大膳亮幸完西城少老となる。上州澁川眞光寺權僧正東卷を獻じ。住職並權僧正を謝し奉る。○十六日勘定吟味役村垣左大夫定行子專次郎範行召出されて兩番格庭番となり。賄頭明樂八五郎茂村子松次郎茂正めし出されて小十人格庭番となる。午後三丸に遊ばせらる。○十七日紅葉山　御宮に土井大炊頭利厚代參す。○十九日午後より　兩御所共に吹上に遊歩せらる。○二十日東叡山　心觀院殿靈牌所に土井大炊頭利厚代參す。火消役西郷齋宮員豐小普請組支配となる。○廿一日丹後國田邊城主牧野佐渡守宣成病によて請まゝに致仕す。所領三萬五千石は其子豐前守以成に繼しむ。此宣成は故豐前守惟成の第五男にして。幼名虎次郎といふ。兄ども皆身まかりしかば。天明三年七月十八日嗣子となり。その秋九月十六日家つがしめられ。同じ年の十二月十五日　浚明院殿を拜し奉り。同じ冬十二月二十八日從五位下して佐渡守に任じ。この日致仕し。同じ八年三月廿六日終りをよくす。歳は四十八とぞ。○廿三日水邸より後閣へ鮭を進らせらる。○廿四日東叡

若年寄井伊直朔城主格となる

山　孝恭院殿靈廟に少老松平能登守乘保代參す。少老井伊兵部少輔直朗そのとしごろの精勤を褒せられて城主に准ぜらる。小姓荒尾但馬守成章先手筒頭となる。○廿七日西城切手番の頭森山忠三郎義立老免して小普請に入り褒金を賜ふ。此日晝餉すませられ吹上の園に御遊あり。○廿八日　番醫湯川安道元倓日光門主近々御登山により。添てまいるべしと命ぜらる。西城小十人三橋勝之丞信喬同じ組頭となる。○廿九日表右筆御牧長十郎昌方老免して。小普請に入り褒金を賜ふ。この日飯沼弘經寺在禪鎌倉光明寺へ。舘林善導寺澤亮飯沼弘經寺へ。增上寺伴頭隆也舘林善導寺へ共に住職命ぜらる。○晦日馬預並岩波七五郎延壽子馬方見習ふ鐵之助延繼。常に精研なれば十五人口を下さる。◎九月朔日月次の賀例のごとし。松平遠江守忠告。松平右近將監武厚參覲す。久世大和守廣譽就封の暇たまふ。牧野豐前守宣以家繼しを謝し獻り物す。山内遠江守豐武。寄合藪三郎右衛門忠恒。大島兵庫義德駿府城加番命ぜられ暇下さる。寄合火災巡視奉はりし石川兵庫總明火消役となる。品川東海寺輪番代を謝し東本を獻ず。少老京極備中守高久朝鮮來聘の事奉はるべしと命ぜらる○二日重陽の御祝として。三家の方々はじめ。萬石以上の輩使して時服をたてまつる。西城へも同じ。○三日日光門主御登山あるにより。高家宮原長門守義潔御使して梨子二籠をおくらせらる。此日奥能あり。玉井。通盛。班女。天鼓。絃上。附祝言。（脱字歟）狂言萩大名。業平餅。伯母酒。いくゐなり。○四日重陽の御祝として。日光門主使して二種一荷をたてまつる。備

板倉勝睿卒

日本全圖地圖

レサノツト長崎に來る

中國松山城主板倉周防守勝睿卒す。遺領五萬石をその子充之進勝職につがしむ。この勝睿は故周防守勝政が長子にして。寛政十二年七月朔日　文恭院殿に見え奉り。同じ年十二月十六日爵ゆりて左近將監と改稱し。享和元年三月八日襲封雁の間に列り。同じ月九日周防守に改め。このとし七月十二日卒す。年二十一。先手筒頭大河内善兵衛政壽子彦四郎。寄合河野主税利通子鐵三郎通明はじめ。父死して家つぐ者十九人。この日　大納言殿には高田のほとりへ成らせらる。○五日日光門主公澄法親王御登山により。まうのぼられ御對面あり。饗膳を賜はり猿樂見せしめらる。能始は少老京極備中守高久して傳ふ。樂は竹生島。經政。野宮。俊寛。舍利。狂言二番。庖丁聟。鏡男なり。院家坊官家司にいたるまで饗せらる。○七日本所彌勒寺賢慶大塚護持院住職たらしめられて護國寺を兼しめらる。この日魯西亞船一艘肥前長崎神の島に船掛りのよし。その所の奉行肥田豐後守頼常より注進ありしかば。目付遠山金四郎景晋をつかはされ。速に歸國すべしと諭告せらる。○八日東叡山　浚明院殿靈廟に御詣あり。同じ山の　嚴有院殿靈廟には青山下野守忠裕代參す。高家大澤下野守基季は日光山　御宮代參使。加藤能登守明陳は登祀の奉行命ぜられいとま下さる。賜物舊のごとし。○九日菊節の佳儀例のごとし。○十日東叡山　常憲院殿靈廟に牧野備前守忠精代參す。○十一日菊千代の方山王の祠へ御宮參あり。御かへさに西城後閣へ立寄らせらる。菊千代の方よ

り　大納言殿へ卷物十。行器。二種千疋。　大納言殿より菊千代の方へ御刀。壽命。白銀廿枚。綿廿把。二種千疋。御所幷　臺の上より　大納言殿へ一種千疋づゝ進らせらる。同じ事により留守居松浦越前守信桯卷物三。西城裏門番の頭小川七郎左衛門廣隆同じ品下さる。少老京極備中守高久は御名進らせしにより卷物五。小納戸大井庄三即昌隆同三奥にて賜ふ。又山王へ護送陪從の輩へは吸物祝酒。其他の者へは酒肴を下さる。信桯は御宮參奉はり。廣隆は奥勤の時蔡目。昌隆は箆刀の役をもてなり。藏奉行平岩次郎兵衛親豐。田安邸勘定奉行小普請清水彌八郎久慶同じ近習番となる。○十二日三緣山　惇信院殿靈廟に青山下野守忠裕代參す。徒士頭堀求馬定成先手筒頭となり。故京町奉行勤めし寄合松下河内守保綱徒士頭となる。又步行目付北角仙次郎資順材木石奉行となる。○十三日一橋門外閑地へ成らせらる。菊千代の方宮參濟ませられしにより貞章院尼使して祝し進らせて鮮鯛獻られ。日光門主同じ事により使して昆布を進らす。○十四日三緣山　文昭院殿靈廟に戸田采女正氏敎代參し。清揚院殿靈廟に奏者番内藤豐前守信敦代參す。此日淑姬の方本城へ入らせられ御滯留あり。萬年記　○十五日月次の賀例の如し。三宅備後守康友。保科能登守正德。京極加賀守高有坂城加番はてゝかへり謁す。板倉充之進勝職金綿を獻じ襲封を謝す。牧野豐前守以成はじめて就封のいとま下さる。内藤帶刀政和。交代寄合菅沼新八郎定邦初見したてまつる。僧侶住職を謝し奉るもの三人。大坂戍役はてゝかへりし大番頭永井大和

守直諒。松平丹後守信圭。兩與頭番士も同じ。日光奉行三橋飛驒守成方。浦賀奉行仙石彌兵衛久功賜物有て共に赴任の暇下さる。○十七日紅葉山　御宮詣雨ふりしかば淹滯せらる。よりて土井大炊頭利厚代參す。○十八日水尾のかた〳〵物そへ口切茶をまいらせらる。越後國三日市領主柳澤信濃守里之卒す。宗家よりも請ひ申ごとく。遺領一萬石をその子吉藏里世につがしむ。この里之實は宗家美濃守信鴻が第五子にして。幼名は來五郎といふ。天明二年五月七日嗣子に命ぜられし日封をつぎ。その夏六月朔日はじめて　浚明院殿を拜し奉り。同じ冬從五の下して信濃守に任じ。このとしの七月二十五日四十七歲にして終りしなり。○十九日王子のほとりへ　兩御所成らせらる。御拳鶉十三。　大納言殿は同十四狩捉給ふ。安藤對馬守信成陪從して同じ品を得らる。金輪寺にて晝餉聞し召る。萬年記　○二十日東叡山　大猷院殿　有德院殿靈廟に牧野備前守忠精代參す。○廿一日　樂宮御方午の牌後閣へ着御せられ。同じ御祝に鼓吹あり。萬年記　○廿二日寄合中根内膳正英火災巡視の事命ぜらる。濃勢甲三國川渠營築の事によて勘定の者つかはさる。○廿三日紅葉山　御宮。　諸廟に御詣あり。高家大澤下野守基季。祭祀奉行加藤能登守明陳日光山より歸り謁す。○廿四日三緣山　台德院殿靈廟に戸田采女正氏敎代參し。　東叡山　孝恭院殿靈廟に少老立花出雲守種周代參す。日光門主御歸寺ありしかば。高家織田主計頭信由御使して慰勞せらる。一橋邸用人篠田次郎四郎泰通徒士頭となる。佐渡奉行支配與頭

南條助七郎元長裏門切手番の頭命ぜらる。○廿五日日光門主御歸寺により。使して薯蕷一匣をまいらせらる。○廿六日日光門主御歸寺によりまうのぼられ御對面あり。留守居龜井壹岐守清容。小普請奉行蜂屋遠江守成定大奥長局修復の事奉はりしにより。時服あるは黄金そへて賜ひ。所屬の輩金銀の賜物差あり。小普請より西城小姓組に入る者六人。此日勘定牛窪直右衛門賴諄淺草米廩の事奉はる。○廿七日吹上の庭園に成らせられ。それより民部卿の方神田橋の邸へ過らせらる。又峯姫君にも同じく同邸へわたらせらる。大坂定番安部攝津守信亨病免す。○廿八日一橋民部卿のもとに戸田采女正氏敎。青山下野守忠裕御使して。請はるゝまゝに松之助の方を嫡子と仰出さる。高家戸田土佐守氏明して日門へ本月御祈禱料として銀百枚つかはさる。○廿九日三緣山　有章院殿靈廟に青山下野守忠裕代參す。◎十月朔日月次の賀例のごとし。阿部主計頭正倫始め就封のいとま賜はり御馬を下さる。南部左衛門尉信房病もて使して參覲を謝す。小笠原伊豫守忠固。田沼玄蕃意正。柳澤吉藏里世家繼しを謝し奉りて共に獻りものす。伊豫守忠固の家士二人も拜謁す。留守居松浦越前守信桯。　御臺所用人東條信濃守長祇。目付土屋帶刀直廉。使番石野新左衛門廣溫。後閤廣敷番の頭石尾喜左衛門氏武。宮本三次郎俊鄕京よりかへり謁す。戸田采女正氏敎は　樂宮御方御下向の事奉はりしによて見えたてまつり時服を賜ふ。大塚護持院住職を謝す。有栖川宮御息女房君樂宮御方御養母。薨ぜられしにより　樂宮けふより喪にこもらせらる。○二

島津齊興元服

日濱の庭園に成らせらる。御拳眞鴨。小鴨若干。ひとり一羽なり。諸番より新番にうつるもの十人。○三日寄合松平主膳忠幸子晴三郎。酒井忠恕子龜之進はじめ。父死して家つぐもの十二人。大津代官石原庄三郎正通精勤を褒せられて。布衣の士にくはへらる。○四日臨時の朝會あり。黑木書院へ出まし。松平又三郎首服加へられ御一字を下され。從四位下侍從に叙任し豐後守齊興と改め。大和國正長の太刀。馬。卷物。銀子をたてまつり見えたてまつる。御盃に美濃國兼重の御刀をそへて下さる。父薩摩守齊宣おなじ事謝してまうのぼり見えたてまつり。祖父重豪入道榮翁には使しておの〳〵物たてまつる。松平安藝守齊賢使して口切茶鮮魚そへたてまつる、又寄合津田好之丞正發。先手弓頭小林彌兵衛正秘養子猪三郎。使番島田庄五部氏馬養子小十郎。書院番與頭松平助大夫乘興子助一郎。小姓組與頭窪田勘右衛門正扶子直作。蜂屋勝五郎正登子喜三郎。小納戸大井庄三郎昌富養子鎌次郎。押田兵庫勝長子養之丞勝延。朝岡新之介定增子新之丞。西城小納戸水野彌兵衛守之子弁六。寄合米津周防守田將子小大夫田朝。田安邸番頭櫻井藤四郎貞幹養子常之丞はじめ初見し奉る。その他尙多し。去りし二日御成のをり鳥射し番士一人時服を賜ふ。○五日御誕辰の御祝として。高家。詰衆。奏者番。布衣以上。その他の輩席々にして御祝の餅酒を下さる。奥能あり。翁三番叟。大社。巴。半蔀。枕慈童。芦刈。紅葉狩。祝言養老。狂言末廣がり。首引。膏藥煉。例のともがら觀覽を免さる。○六日寺社奉行脇坂淡路守安董。大目付井上美濃守利恭。勘定奉

行柳生主膳正久通。中川飛驒守忠英。勘定吟味役村垣左大夫定行。目付松平伊織康英。土屋帶刀直廉。儒臣林大學頭衡朝鮮人來聘の事奉はるべしと命ぜらる。淡路守安董はつねに精勤を褒せられて從四位下にのぼせられ。中務大輔と改稱す。小普請より小姓組に入る者十一人。護持院某權僧正に任ず。○七日　大納言殿淺草のほとりへ成らせらる。○八日東叡山　浚明院殿靈廟に土井大炊頭利厚代參す。玄猪の御祝規のごとし。この日小普請中山彌左衛門義晨　臺の上用達とせらる。○十日吹上の庭園にして弓技御覽あり。その事つとめし寄合松平小豐次乘輪は御酒汲物を下され。勘定組頭關川庄右衛門美鄕。後閤用達鈴木一學安則は布帛二端を下さる。奏者番松平右近將監武厚して。松平薩摩守齊宣へ祭奠として銀三十枚。西城よりは二十枚下さる。これは淨岸院御方（常憲院殿御養女。故薩摩守繼豐室。）の卅三回忌によりてなり。○十二日三緣山　惇信院殿靈廟に牧野備前守忠精代參す。大番頭堀近江守直起大坂定番となり。先手筒頭大林彌左衛門親中明のとし三月まで。火賊捕盜の事勤むべしと命ぜらる。○十三日松平攝津守義居病により。奏者番諏訪因幡守忠肅してとはせらる。此日巳の牌より　兩御所吹上にならせらる。　御臺所へ雁を進らせらる。○十四日三緣山　文昭院殿靈廟御詣雨もよふによって戸田采女正氏敎代參す。○十五日月次の賀例の如し。一橋亞相治濟卿。德川民部卿齊敦卿の方へ牧野備前守忠精御使す。こは松之助のかた民部卿の嫡子と仰出されしによってなり。松之助の方へ美濃國兼光の御刀。卷物五。二種一荷。　御臺所より二種一荷。民部卿の方へ綿二十把。二種一荷。　臺の上より一種一荷。

大納言の方に二種一荷。後閤より一種おくらせらる。民部卿の方にはまうのぼられ御對面せられ太刀。金馬資。卷物。一種一荷。大納言の方は卷物五。一種一荷を進らせらる。松之助の方は太刀馬資。卷物三。一種一荷をともにその家士してたてまつらる。小笠原伊豫守忠固はじめて就封の暇下され御馬を下さる。織田左近將監信浮參覲す。松平土佐守豐策子邦之丞豐興初見したてまつる。增山備中守正寧は大坂加番はてゝ歸り。遠山刑部少輔友壽。寄合南部主稅信隣は駿府加番はてゝかへり。使番小菅猪右衛門正容は大坂目付はてゝ歸り共に拜謁す。　樂宮御方に供奉し下りし大內醫官山科里安元棟。有栖川家々司藤木木工頭。京醫三谷丈順見えたてまつる。賜物有て歸洛す。護持院權僧正に任ぜしを謝して束卷を獻ず。○十六日駒場野へ放鷹として成らせらる。御物數鶉五。松平能登守乘保陪從して鶉を得らる。同じ園にて番士小普請のともがらの砲技を觀給ふ。○十七日きのふ松平攝津守義居（實は一橋大納言治濟卿七男。文恭廟には弟なればなり。）卒せしにより。溜詰。高家。詰衆。奏者番。諸番頭。諸物頭。布衣以上まうのぼり。紀水のかたがた使まいらせ御けしきうかゞはる。同じ事によって一橋大納言治濟卿。田安右衛門督齊匡卿。一橋民部卿齊敦卿のもとに。御側大久保豐前守忠溫御使してとはせらる。

大納言殿よりも同じさまなり。兩御所共に御いもゐあり。けふ紅葉山　御宮へ代參使は立られず。きのふ駒場野にして砲術御覽の事勤めし諸番士小普請の輩布帛

松平義居

を賜ふ。○十八日御制中御けしきうかゞひとして水紀の方々使まいらせ。溜詰。高家。詰衆。奏者番。布衣以上まうのぼる。又松平攝津守義居の事により。小姓組番頭秋元隼人正保朝御使して。尾張中將齊朝卿を吊慰せらる。この日京南禪寺塔頭法皇寺櫻長老金地院住職とせらる。○十九日けふも御けしきうかゞひとして。紀水の方々使して菓子進らせ。群臣まうのぼり御起居を候し奉る。美濃國高須領主松平攝津守義居今はの願ひに任せ。かつ宗家よりも請はるゝまゝに。水戸中納言治保卿次子松平泰之允義和をもて養子とせられ。所領三萬石をつがしむ。この水邸にはその家士召て老臣より傳へらる。この日三河國矢作橋修復の事奉はりし作事方のもの賜物あり。大番山本市左衛門正順其與頭となる。○二十日御けしきうかゞひとして。水戸の方々まうのぼられ老臣に謁し退らる。紀伊家の方々より使まいらせ。諸番頭。諸物頭。布衣以上まうのぼりこれも宿老に謁し退く。また日光門主は使して菓子まいらせらる。松平泰之允義和のもとへ。奏者番井上河内守正甫して香銀三十枚をおくらせらる。一橋大納言治濟卿。德川民部卿齊敦卿の朦中を問せられて。御側白須甲斐守政雍して氷糖。砂糖漬。西城よりは御側酒井若狹守忠敬して大納言殿に麻地飴。民部卿殿に白石飴をおくらせらる。萬年記　この日　大納言殿には　御所より仰まいらせらるゝによて御喪および御そうじをとかせらる。○廿一日けふも御けしきうかゞひとして紀水の方々使まいらせ。溜詰。高家。詰衆。布衣以上まうのぼる。○

廿二日御けしきうかゞひ日毎に同じ。兩番格御庭番中村與八郎惟寅民部卿がたの物頭となる。又同じ方の郡奉行西村左太郎武邦勘定とせらる。○廿四日東叡山池上本門寺へ代參使は立られず。この日小普請方杉浦文左衛門盈永佐渡奉行支配組頭となる。○廿六日御喪闋により。三家のかたゞ〳〵使まいらせ。溜詰。高家。雁間詰。奏者番。布衣以上まうのぼる。松平泰之允義和家つぎ。又制中を問はせられて御使ありしを謝しまいらせて。尾張中將齊朝卿より使まいらす。○廿七日大坂定番堀近江守直起任所に赴くによて。請ふまゝに金三千兩の恩貸あり。　樂宮下向によて。其事府にて奉はりし留守居駒木根大内記政永。　御臺所用人東條信濃守長祗。目付土屋帶刀直廉。使番石野新左衛門廣溫を守信桯。　御臺所用人中島伊豫守行敬。陪從せし留守居松浦越前始めとし時服を賜ひ。所屬の輩賜物差あり。奥右筆與頭秋山松之丞惟祺金時服。奥右筆青木忠左衛門忠陽。蜷川久次郎賢達各金一枚賜ふ。同じ事によりてなり。又京郡代石原庄三郎正通御賄の事奉はりしにより金三枚賜ふ。愛宕圓福寺謙順京智積院の後住とせらる。○廿八日龜有のほとりへ放鷹として成らせらる。御拳雁鴨若干狩らせ給ふ。堀田攝津守正敦從ひて菱喰を得たり。○廿九日重陽に時服たてまつりし三家のかたがた始め。萬石以上の輩へ御内書を賜ひ。　大納言殿より奉書をわたさる。寄合松平小十郎定謐同じ肝煎となる。坂城藏奉行堀内藤四郎氏照西城切手番の頭となる。○晦日去りし廿八日御成のをり烏射し番士二人時服を賜ふ。◎十一月朔日月次の賀

秤の制

例の如し。松平出羽守治鄕子鶴太郎初見したてまつる。仙石越前守久道參覲す。增山備中守正寧。遠山刑部少輔友壽就封の暇給ふ。京智積院東卷を獻じ住職を謝す。日光奉行丸毛長門守利隆參謁す。○二日牧野備前守忠精紅葉山　靈廟修復の事命ぜらる。小普請より腰物方に入るもの一人。けふ令せらるゝは。神善四郎の秤用ふる國々へ。善四郎の人を廻し秤改めしむるをり。數多藏するものも隱し置ず出して點檢を受べし。制に違ひ紛らはしきはとり收めしむべしと。五畿內。山陽。南海。西海。山陰道のうち因幡。伯耆。出雲。隱岐。石見。及び壹岐。對馬三十五ヶ國へ先に觸られしに。制にたがへる秤をも善四郎がもとへ渡さゞる所もあり。猥に秤うりひさぎ。緒も吾手にて取替。掛目不同の秤をつかひ。又は古道具に事寄千木秤等うりひさぐ者もあるよし聞ゆ。いと僻事なり。前にも觸られし如く。善四郎方の改めの役人來りなば。秤殘らず改めを請。東三十三ヶ國の秤は。西三十三ヶ國並壹岐對馬にて通用なく。制に違ひ取上になるべきは善四郎がもとに渡すべし。諸秤新古によらず。善四郎方ならでは衡並錘緒等取替る事あるべからず。もし諸秤改めを請ず猥にうりひさぎ。或は吾手にて衡並錘緒等取替るものあらんにはおもく咎あるべし。此旨公私領へあまねく諭告すべしとなり。又屋敷相對替願の事。切坪の分はこの後は。繪圖面添て出すべしと觸らる。○三日濱の庭園に成らせらる。寄合齋藤主殿三英子久五郎。藤堂近江守良英子榮次郎良爲。先手筒頭鵜殿新三郎長國子猶之丞長龜。間宮友三郎光德子十郎兵衛光儔。京代官小堀縫殿邦明養子中務某。三河衆中島與五郎某子中務某はじめ。父死して家つぐ者二十七人。小堀中務某父の原職を命ぜられ官料千苞を下さる。深川靈巖寺伴頭秀存三州松應寺住職とせらる。○四日宿老戸田采女正氏敎。牧野備前守忠精。土井大炊頭利厚。靑山下野守忠裕。安藤對馬守信成に奧にて御拳の鴨を下さる。○五日小普請奉行蜂屋近江守成定。目付仙石次兵衛久貞。勘定吟味役岡松八右衛門久稠。紅葉山　靈廟修復の事命ぜらる。去りし三日御成のをり鳥射し番士二人時服を賜ふ。此日奧にて散樂あり。曲は高砂。八島。羽衣。七騎落。亂。狂言三本柱。いくね。八島間那須。觀覽のともがら例の如し。○六日吹上に成らせられて仙臺馬御覽あり。はてゝ布衣以上以下。寄合。小十人。及び淸水小普請の輩乘馬御覽あり。はてゝ布衣以上のともがら吸物御酒を下され。布衣以上にはおの〳〵布帛二反を賜ふ。○八日東叡山　淩明院殿靈廟に靑山下野守忠裕代參す。船手頭鈴木九大夫正國留守居番となり。小納戸金田傳左衛門正喜船手頭となる。官料これまでの如く下さる。この日高家中條山城守信復病をもて。御太刀の役並御給仕御ゆるしあり。○九日新番組頭鵜殿三郎兵衛長英病により辭職す。○十一日使して御鷹の雁賜ふもの。松平左近將監賴興はじめ八人。奧にて戸田采女正氏敎　臺の上より御召御小袖一重給ふ。こは　樂の宮の事奉はるによりてなり。○十二日三緣山　惇信院殿靈廟に土井大炊頭利厚代參す。○十三日三河島のほとりへ放鷹として成らせられ。鴨鷺を狩得給ふ。武州中島金剛院即同本所彌勒

儉約令

寺住職とせらる。佐竹右京大夫義和はじめ九人へ使番もて雁給ふ。○十四日小普請より書院番に入るもの十人。○十五日月次の賀例の如し。松平紀伊守信志參覲す。松平長門守近儔養子欣彌近義初見したてまつる。去りし十三日御成のをり鳥射し番士二人時服をたまふ。この日巳刻に　樂宮御方西城へ御滯留として入らせらる。三州松應寺。市谷月桂寺東卷を獻じ住職入院を謝す。金地院出世の公帖を給ふ。浦賀奉行仙石彌兵衛久功參謁す。京代官石原庄三郎正通任所への暇給ふ。賜物金時服羽折そへ下さる。又使番して松平淡路守利幹はじめ十七人へ雁各□下さる。○十六日吹上の庭園に成らせられ南部馬御覽あり。新番加藤助五郎則親同じ與頭とせらる。○十七日御服中によて紅葉山　御宮に代參使立られず。日光門主使して口切茶に蜜柑そへ進らせらる。寄合横山兵庫助知雄火災巡視を命ぜらる。此日碁將棋の者召して其技を鬪はしむ。○十八日濱の庭園に成らせらる。御物數は鴨ひとりなり。右衛門督のかた陪せられ鴨若干狩せらる。この日使番をして松平紀伊守信志はじめ四人雁を下さる。仙臺馬牽き入れの事つとめし　松平政千代が家人等時服白銀を下さる。○十九日宿老の輩へ奥にして御鷹の雁を下さる。丹羽式部少輔氏昭大番頭となる。南部馬牽き入れの事つとめし南部大膳大夫利敬が家人ら時服白銀を下さる。○廿一日大川のほとりへ成らせられ。鷹にて鴨狩給ふ事數多し。また漁を視給ふ。箱崎の田安邸別墅にて餉參る。萬年記　令せらるゝは。節儉の事本年までとさきに令せられしかど。今に國用充實せず。其

松平齊恒元服

上諸家多くは家計窮乏のよし聞ゆれば。猶又來ん未年まで七ヶ年の間は。是迄のごとく節縮の事命ぜられぬ。かゝる事はもとより御旨にも應ぜざる事なれど。かくてあらんにはいつまでも充實の期あるべきならねば。猶又令せらるれば。いよ〳〵この旨を守り。節縮して年限のうち行屆くやうに。各專ら心入べしとなり。○廿三日臨時の朝會あり。松平出羽守治郷子鶴太郎首服を加へて御一字を下され。從四位下侍從に叙任せらる。出雲守齊恒と改め。太刀。白銀。卷物。馬。備前國春光の刀を獻じ見えたてまつる。御盃に加賀國清光の御刀をそへて下さる。出羽守治郷綿。金馬資をたてまつりてまみえ奉る。松平伊豆守信明。太田備中守資愛。酒井修理大夫忠貫。秋元但馬守永朝御鷹の雁を下さる。少老松平能登守乘保。井伊兵部少輔直朗。京極備中守高久。堀田攝津守正敦。立花出雲守種周。植村駿河守家長。青山大膳亮幸寛奥にて同じ雁を下さる。○廿四日東叡山　孝恭院殿靈廟に松平能登守乘保代參す。○廿五日大久保安藝守忠眞。松平右京亮輝和。戸田越前守忠翰。松平右近將監武厚。井上河内守正甫めして御鷹の雁を下さる。この日吹上にて半的御覽あり。夫より二丸へならせらる。○廿六日新番小野次郎兵衛高純同じ與頭となる。○廿七日内藤豐前守信敦はじめ十五人へ御鷹の雁を下さる。二丸留守居岡八郎兵衛孝道老免して寄合となる。父致仕して子家つぐ御家人二十四人。この日寄合醫前川玄德雄氏。其子玄孝罪有て士籍を削らる。西城新番六郷藤右衛門政與小普請に入御前を憚らしむ。小普請仁科長之助信任謁をとゞめ

らる。その他連及のものいと多し。何たる事は詳ならず。○廿八日一橋門外間地へ成らせらる。御物數尾長鴨。眞鴨。ひとり一羽づゝ狩得給ふ。○廿九日吹上庭園に成らせられ騎射御覽あり。六鄕佐渡守政速領地出羽國本庄。ことし六七月の地震にて城郭櫓多門塀石壁及び町在とも破損により。請ふまゝに金二千兩の恩貸あり。勘定奉行中川飛驒守忠英。おなじ吟味役河尻甚五郎春之。東海道及び甲濃勢尾四國の川渠修築の事命ぜらる。勘定竹垣庄藏直淸小普請方となる。○晦日きのふ騎射御覽ありしによて。その師寄合小笠原平兵衛常方時服を給ひ。射手の弟子諸番士。及びその子平八常亮ともに二十五人金を下さる。具足奉行加藤彌平次景主老免して小普請に入り褒金あり。命せらるゝは。金銀懸合する分銅。寛文年中改め前の古分銅を兩替仲間にて遣ふよし聞ゆれば。京大坂堺近江の分。潰までも外にて賣買せず。潰直毎をもつて後藤四郎兵衛方へ買請させ。目輕き古分銅うち〳〵にてうりひさぐべからずとしば〳〵觸られしに。今に西國並に長崎筋にては。古分鋼多く賣買し用ふるよし聞ゆ。この後内々にて賣買するはいふまでもなし。隱置ず四郎兵衛がもとへ渡すべし。分銅改めの役人廻らしめ。紛敷は取收めしむれば。この旨よく〳〵守るべし。この事先にしば〳〵觸られしかど。頃日また紛らはしき分銅用ふるよし聞ゆるにより。猶又令せらるれば。此旨よく〳〵心得べしとなり。◎十二月朔日月次の賀例のごとし板倉主計頭勝意養子百助勝尙初見したてまつる。小姓組番頭に准じ申次見習ふ林肥後守忠勝御側となり。

松平近儔致仕

申次舊に同じ。脇坂中務大輔安董。堀田豐前守正穀。堀内藏頭直皓めして御鷹の雁を下さる。僧侶等束卷獻じ住職を謝し奉るもの三人。○二日上千葉のほとりへ成らせらる。鷹もて鴨若干狩捉給ふ。蓮昌寺にて御膳を供し奉る。萬年記歲暮の賜物例のごとし。○三日大番頭德力金十郎良興。小普請組頭南條權三郎隆篤二丸留守居となる。天文方吉田勇太郎秀賢恩借の書籍紛失せし事心つかず。不調法もて御前をとゞめらる。この夜子の牌前小川町稻葉丹後守正諶の邸より火起りしにより。宿老少老その他まうのぼり御けしき伺ふ。○四日けふも歲暮の賜物例に同じ。本所靈山寺戒堂京黑谷金戎光明寺へ。增上寺伴頭秀海本所靈山寺へ共に住職とせらる。○五日寄合永井彌右衛門白衆嫡孫平八郎。徒士頭小笠原館次郎持齡養子直之允持暠はじめ。父死して家つぐ者七人。去りし御成のをり鳥射し番士三人時服を賜ふ。此日淨岸院の方三十三回忌正當により三家を始め其他まうのぼり御けしき伺ふ。○六日歲抄の褒賞舊に同じ。寒入に後國府内城主松平長門寺近儔病により致仕す。所領二萬千二百石は。請置しまゝにその養子欣彌近義に繼しむ。この

○七日日光長主墓撰。增上寺方丈生花蜜柑獻じ寒中御氣色うかゞふ。小普請小長谷伊織持懋同じ與頭命ぜらる。○八日東叡山　浚明院殿靈廟に戸田采女正氏敎代參す。西城小納戸依田平左衛門政明先手筒頭となる。この日金地院五山の僧祿職となる。○

儉約令

九日けふも歳暮の賜物あり。○十日高家中條山城守信復年齡といひ。そがうへ病勝れざるをもて遠國代參使御ゆるしあり。○十一日高家宮原長門守義潔同じ職を指揮すべしと命ぜられ官料八百俵下さる。大番水谷權大夫忠陸その與頭となる。また大番より納戸へうつるもの一人。けふ令せられしは。節儉の事年限といへども。未充實せざるにより。猶此度厚き御旨もて仰出されしにより。いよ〳〵諸有司心入れて勤るはいふまでもなし。諸局とくと勘へはかりて。取計の品も有べければ各心入るべし。後閣の費用も殊更御心用ひさせ給ふよしなり。是等の事達する迄もなけれど。表向の人々油斷なき爲に示し置るゝなり。されば命ぜらるゝ御旨相含て厚く心懸べし。かつ又頃日諸局前々の仕來り模樣替品替。又は當局の仕法替調物など。新規の事建白の事等。往々は保方よく有益の事なりとも見越たる事にて。當今費用も嵩む事ゆへ。まづは年限中は見合せて可なるべし。尤差當り不益にて國用に響ざる事等は捨置べきにあらず。又取懸りある事を止べしとの事にはあらずとなり。○十二日三緣山　惇信院殿靈廟に靑山下野守忠裕代參す。歳暮の褒賞例に同じ。○十三日龜有のほとりへ成らせらる。御物數鴨數多狩得給ふ。惠明寺にて晝の御もの奉る。萬年記掃塵例の如し。水戸中納言治保卿のもとに。本多大隅守政房御使して御鷹の鶴をおくらせらる。中納言治保卿同じ事を謝してまうのぼられ老臣に謁られ退でらる。天守番の頭水谷善兵衛直賢老免して小普請に入り褒金を賜ふ。○十五日申の牌月蝕皆既。月次の賀例の如し。大坂定番堀近江守直起はじめて赴任のいとま下さる。賜物舊に同じさまなり。松平泰之允義和襲封を謝して見えたてまつり銀卷物を獻ず。家士二人も同じ。堀田大藏大輔正順はじめ參覲のもの七人。那須衆二人參謁す。新番頭岩本石見守正倫は金。時服。羽織給ひ。大坂定番引渡し命ぜられ暇下さる。使番奥山八十五郎良泰は駿府目付はてゝかへり謁す。日門および增上寺方丈へ使して檜重をつかはされ寒氣を問せらる。納戸頭勘定吟味役兼し河尻甚五郎春之東海甲濃尾の川渠浚利により賜物有ていとま給ふ。僧侶住職色衣を謝するものあり。○十六日南部大膳大夫利敬。松平下總守忠翼共に從四位下にのぼる。大膳大夫は蝦夷地の事勤めしによてなり。されど家の龜鑑にはなすまじと命ぜらる。從五位下に叙するもの十六人。内藤帶刀政和は備後守。朽木肥兒太郎綱方は土佐守。松平欣彌近義は主膳正。酒井左京忠質は縫殿頭。一柳隼人末昭は土佐守。田沼玄蕃意正は頭。牧野越中守貞喜子左京貞幹は兵部少輔。有馬左兵衛佐譽純養子藏人一純は肥前守。板倉内膳正勝長子亥三郎勝俊は右近將監。板倉主計頭勝意養子百助勝尙は伊豫守。本多越中守忠誠子正之進忠知は河内守。大坂定番堀近江守直起養子主膳直溫は筑後守。西城小姓組番頭渡邊平十郎久は山城守。小姓戸塚吉三郎忠榮は式部少輔。西城小姓福村久米之助正策は淡路守と改む。幷に松平加賀守齊廣家司の内一人叙爵を免さる。山本宗英惟直は法印になり永春院とあらため。河野良以通明。西城奥醫鹿倉以仙格甫は法眼になる。布衣の士に加へらるゝもの十二人。小普請組支

配佐藤修理信顯。火消役土井左門利豐。石川兵庫總明。西城目付櫻井庄兵衛勝强。使番根來喜内正聖。戸川大次郎安章。彦坂三大夫紹芳。徒士頭小幡次郎八當寄。西城徒士頭大島雲四郎義順。二丸留守居德力金十郎良輿。南條權三郎隆篤。勘定吟味役村垣左大夫定行なり。又一橋邸用人小澤新十郎忠安。右衛門督の方用人島村惣左衛門俊密。民部卿方用人細田小兵衛時亮共に卿の請るゝにより布衣の列に加へらる。小普請より大番に入るもの十二人。去りし十三日御成のをり鳥射し中奥番及び大番士に時服を賜ふ。此日使番して堀田大藏大輔正順に雁二。土岐山城守頼布。鳥居丹波守忠燾各一を賜ふ。○十七日紅葉山　御宮　諸廟に御詣あり。歳暮の御祝として。日光門主使して二種一荷を進らす。○十八日日光門主近々御登山により。高家大澤下野守基季御使して小袖。綿子。枝柿をおくらせらる。番醫小柴池庵爲盛は門主に添ひて山にのぼるべしと命ぜらる。○十九日尾張中將齊朝卿のもとに。小姓組番頭室賀壹岐守正頼御使して御鷹の鶴を贈らせらる。此日奥にて申樂の御遊あり。觀覽のともがら例に同じ。(樂屋脱漏)月宮殿。忠度。遊行柳。通小町。常陸帶。船辨慶。狂言惠比須大黒。猿座頭。唐相撲。○二十日日光門主御登山により。まうのぼられ御對面あり。門主には少しく風の御心地により饗膳は賜はらず。○廿一日小松川のほとりへ放鷹として成らせらる。御物數黑鶴鴨鷺各一羽捉給ふ。黑鶴若柳と名付し鷹とぞ。仲臺院にて晝餉すゝめ奉る。(二字脱漏)三緣兩山。三家の方々へ御使して八代蜜柑を贈らせらる。有馬中務大輔頼貴子上總介頼端病危篤により。奏者番松平右近將監武厚して問せらる。大番柘植甚左衛門正英老免して小普請に入り褒金を賜ふ。歳暮の御祝として。三家の方々始め。萬石以上の輩時服を献る。　大納言殿へも同じ。この日歳暮の褒賞舊の如し。○廿二日臨時の朝會あり。松平主膳正近義就封の暇下さる。西城御側酒井若狹守忠敬養子駒五郎。書院番頭巨勢日向守利和養子勇次郎。京町奉行曲淵和泉守景露子勝次郎景山。槍奉行竹本隼人正恒子直八郎。使番仁賀保孫九郎誠朊子斧三郎。進喜太郎子太郎左衛門。西城徒士頭大島雲四郎義順養子織之助。船手頭村上三郎右衛門常福養子敬藏。鷹匠頭戸田五介子和三郎初見したてまつる。その他のもの若干なり。○廿三日留守居駒木根大内記政永。小普請奉行有田播磨守貞勝は。西城後閣その他修復の事奉はりしによて時服また金そへてたまひ。所屬の輩賜物差あり。西城小姓組與頭長田三右衛門元著病免して小普請に入る。又歳暮の賜物あり。小納戸林藤五郎忠起西城小姓となる。けふも歳暮の褒行はる。○廿四日東叡山　孝恭院殿靈廟に井伊兵部少輔直朗代參す。增上寺方丈茶野老。小石川傳通院蜜柑獻じ歳暮を祝しまうのぼる。金地院僧祿職の御朱印を下さる。田村右京大夫敬顯。森河内守長義。相良志摩守頼德。岩城伊豫守隆恕。明の春參向の公卿門跡館伴を命ぜらる。評定所留役勘定組頭羽田藤右衛門保定同じ吟味役となり。評定所の事これまでのごとく勤むべしと命ぜらる。西城表右筆より小十人組に貶せらるゝもの一人。また小納戸松平寅太郎は小姓となる。○廿五日有馬中務大輔頼

貴子上總介賴端卒せしかば。中務大輔賴貴のもとに奏者番市橋下總守長昭して問はせらる。留守居番山岡平右衛門景直嫡孫熊次郎景章。先手筒頭屋代求馬忠良養子寄合阿波守忠辰。寄合岡八郎兵衛孝道嫡孫吉太郎はじめ。父死して子家つぐもの二十九人。久世大和守廣譽。大岡主膳正忠正へ御鷹の雁を下さる。鐵砲玉藥奉行風祭求馬古明天守番の頭となり。奥右筆岡本勘右衛門保脩鐵炮玉藥奉行となる。○廿六日東叡山

至心院殿靈牌所に御側林肥後守忠勝代參す。此日初雪降しかば。日光門主三家の方々使まいらせ物獻じ。並に高家。詰衆。奏者番まうのぼり御起居を伺ふ。又在府四位以上の輩も使まいらせ同じ事を候し奉る。又右衛門督の方小十人頭大塚彌惣友次具足奉行となる。○廿七日勘定奉行中川飛驒守忠英。作事奉行平賀式部少輔貞愛。目付遠山金四郎景晋竹雁芙蓉三間修復の事奉はりしにより。時服或は金そへて賜ひ。所屬の輩賜物差あり。○廿八日歳暮の賀例のごとし。松平泰之進義和從四位下侍從に叙任し。中務大輔とあらたむ。目付遠山金四郎景晋長崎表の事命ぜられて暇たまはり。賜物金。時服。羽織下さる。魯西亞船の事によりてなり。奥右筆見習山田留之助直行本職となる。再雪ふりしかば。紀尾のかた〴〵使まいらせ御けしきうかゞはる。○廿九日少老京極備中守高久その年老及び精勤を褒せられて。八丈縞三反を賜はり。紅裏着する事をゆるさる。大番國領十郎右衛門成□同じ與頭となる。◎この年諸國豐熟するの聞へあり。武江年表

目付遠山景晋魯船來着のことにより長崎に赴く

諸國豐穰

文恭院殿御實紀卷三十八

〔自正月至六月廿三日原本欠、而魯船來着之事、宜參照第二編卷末附載史料〕

○文化二年六月廿四日東叡山　孝恭院殿靈廟に少老堀田攝津守正敦代參す。土旺に入りしかば。三家のかた〴〵使して御けしきうかゞはる。溜詰。高家。詰衆。奏者番まうのぼり同じく御起居を候し奉る。○廿五日端午の御祝として。時服たてまつりし三家のかたがたはじめ。萬石以上のともがら御内書を賜ふ。西城よりも同じく奉書を下さる。大番羽太左京正榮。蜂巢彦三郎時尚おなじ與頭となる。日門より懸香。增上寺より生花熟瓜を獻る。○廿八日西城目付長田六左衛門繁昌先手頭となり。徒士吉松次左衛門正弘留守居番となる。

文恭院殿御實紀卷三十九

文化二年七月にはじまり十二月に終る

◎七月朔日月次の賀例の如し。松平下總守忠翼就封の暇下され御馬を賜ふ。酒井大和守忠嗣。永井信濃守直方は坂城加番の御暇下され賜物規の如し。松平越中守定信子太郎丸初見し奉る。大番頭本庄近江守道昌。淺野中務少輔長富坂城在番の暇給ふ。與頭番士も同じ。○二日日光門主使して。不忍池の新蓮藕一籠を進らせらる。出羽國上山

松平信愛卒

酒井忠哲致仕

城主松平山城守信愛卒す。嗣子なくして。請ふまゝに松平越後守康人弟順丸（後勘四郎と改む。）信立（行歩）を養子として遺領三萬石を襲しむ。此信愛は故

○三日西城先手頭松平源藏義崇子左源太義理始め。父死して家つぐ者七人。東叡三緣兩山に御使して暑氣を問はせられ檜重贈らせらる。○四日七夕の御祝として。日光門主使して二種一荷を進らせらる。○五日上野國伊勢崎領主酒井駿河守忠哲病により請ふ儘に致仕す。所領二萬石は其子與八郎忠寧に襲しむ。此

小姓花村忠兵衛正彬小納戸となり。小納戸松平勇助近美西城にうつる。○六日七夕の御祝として。三家のかた〴〵はじめ。例のともがらより使して鯖料たてまつる。○七日七夕の御祝規のごとし。○八日東叡山　浚明院殿靈廟に青山下野守忠裕代參す。

先手頭戸川大學達旨火賊捕盜の事明のとしの七月まで。これまでのごとくつとむべしと命ぜらる。○十日堀田大藏大輔正順病により。使番初鹿野傳右衛門信政してとはせらる。○十二日三緣山　惇信院殿靈廟に土井大炊頭利厚代參す。土屋保三郎寛直東海道および甲斐伊勢美濃尾張四國川々修復助役の事命ぜらる。○十四日紅葉山

諸廟に御詣あり。東叡山　至心院殿靈牌所に御側岡部因幡守長貴代參す。○十五日中元の佳儀例のごとし。孟蘭盆會により。高家中條河内守信義御使して日光門主に時服二十。奏者番有馬左兵衛佐譽純して　增上寺方丈に時服十。白銀二百枚を贈らせらる。○十六日宗對馬守義功朝鮮信使の事によて彼國に往來する事年久しうして。こた

松平康人卒

杉田元伯將軍に謁す

び又對馬國まで來聘せしにより。特旨もて金一萬兩を恩賜せらる。小普請より小十人組に入るもの十一人。小納戸松平宇右衛門康能病をもて奥の務をゆるさる。○十七日紅葉山　御宮に青山下野守忠裕代參す。○十八日松平越後守康人病に犯されしにより。奏者番堀内藏頭直晧して問はせらる。小姓組長坂頼母信義徒士頭となる。頼母信義血鑓九郎と改稱す。○二十日番醫野呂元忠實信奥詰醫となる。○廿二日松平越後守康人卒せしかば。その子愼三郎のもとに。奏者番水野壹岐守忠韶御使して。香銀二十枚をおくらせらる。○廿四日東叡山　孝恭院殿靈廟に少老京極備中守高久代參す。西城小姓組番頭本多因幡守忠盈は小姓組番頭となり。甲府勤番支配瀧川出羽守利濟は西城小姓組番頭となり。使番村越七郎左衛門正丈は西城目付となる。○廿五日寄合大草織部高般養子主膳高好始め。父致仕して子家つぐもの十八人。西城小十人一場藤右衛門政許老免して小普請に入り褒金を賜ふ。○廿六日大番中根次郎右衛門正庸老免して小普請に入り褒金を賜ふ。○廿八日月次の賀例のごとし。松平飛驒守利考はじめ參覲のもの四人。酒井修理大夫忠貫の家醫杉田元伯。町醫加藤宗玄。西良仲おのおの家業出精によて拜謁せしめらる。牛込濟松寺某。谷中善性寺某紫衣繼目を謝し奏りて。おの〴〵東卷を獻じ奉る。◎八月朔日當日の賀例のごとし。○三日使番天野權十郎雄行子權五郎はじめ。父死して家つぐもの三人。百人組の頭松平侶之允定能甲府勤番支配となる。諸番より西城新番に入るもの八人。○四日納戸組頭境野六左衛門

松平容頌卒

目付遠山景晋、勘定吟味役村垣定行を松前西蝦夷地に派遣す

英昇天守番の頭とせらる。○六日松平肥後守容頌うせしかば嫡孫若狭守容衆のもとに。奏者番小笠原近江守貞温御使して。香資銀三十枚おくらせらる。○八日東叡山浚明院殿靈廟に牧野備前守忠精代參す。後閣の御膳所臺所の與頭吉田伊左衛門同じ臺所の頭となる。○九日濱の庭園に成らせらる。御物數はむく鳥雀なり。此日水邸より初鮭を驛進らさる。○十二日三緣山　惇信院殿靈廟に青山下野守忠裕代參す。去りし九日御成のをり鳥射し番士一人時服を賜ふ。○十三日紀水兩黄門。尾兩羽林へ御鷹の雲雀おくらせらる。①十四日納戸番黑田小平太爲忠その與頭とせらる。○十五日月次の賀例のごとし。松平右近將監武厚始め參覲の者七人。土岐山城守頼布はじめ就封のいとまたまはるもの八人。長崎奉行成瀨因幡守正定賜物舊の如くにして赴任の暇下され。目付遠山金四郎景晋。勘定吟味役村垣左大夫定行は松前西蝦夷地の事命ぜられ。賜物ありて暇たまふ。使番本多丹下繁文。書院番小出主膳輝英は大坂目付にされおの〳〵いとま下さる。中奥小姓酒井大内記忠求は百人組の頭となる。この日水戸中將のかたへ雲雀をつかはさる。また松平加賀守齊廣はじめ八人へ。使番して同じく下さる。○十六日使番をして雲雀を賜ふ者。松平上總介齊政父致仕治政入道一心齋を始め十二人。○十七日紅葉山　御宮に牧野備前守忠精代參す。○十八日宿老へ雲雀を奥にて下さる。○二十日東叡山　心觀院殿靈牌所に土井大炊頭利厚代參す。○廿一日大番頭内藤甲斐守正範駿府城代となる。○廿三日小普請小野寺傳十郎次男谷

六孫王八百五十年忌により清和源氏の諸家に寄附を命ず

堀田正順の

次郎罪ありて死に處せらる。其他連及の者多し。○廿四日東叡山　孝恭院殿靈廟に少老井伊兵部少輔直朗代參す。○廿五日來る卯の年六孫王八百五十年忌により。御所より御寄附あるによて。清和源氏のともがら。萬石以上以下とも。其志にしたがひ助力すべしと命ぜらる。○廿六日釋奠により。聖廟に御側白須甲斐守政雍御使す。○廿八日下總國佐倉城主從四位下侍從堀田大藏大輔正順いまはの請によりて。遺領十一萬石を子相模守正時に襲しむ。この正順はもとの相模守正亮が子にして。寶暦十一年四月十八日　浚明院殿に初見しねむごろの御詞を蒙り。および家士二人も拜み奉り。同じ年十二月十八日諸大夫命ぜられ相模守と改む。安永三年七月二十八日寺社の奉行を兼。同じ七年四月十九日大坂の城代となり四位に叙し。寛政四年八月十九日老臣等に驛書して。京都所司代となり侍從に任じ。同じ十年十一月六日病に犯され病免し舊班に列り。文化二年の七月十二日六十一歳にして終をよくす。西城小姓組番頭山田讃岐守利往は小姓組番頭となる。百人組の頭松平式部忠寧は西城小姓組番頭となる。○閏八月朔日月次の賀例のごとし。松平彈正忠正路。小笠原信濃守長禎。本多大和守忠居は大坂加番はてゝかへり謁す。黑田豐前守直方はじめ就封のいとま賜はるもの二人。使番小笠原政之助直信は駿府目付にされていとま下さる。駿府城代内藤甲斐守正範任に赴くにより。さきゞのまゝに金千五百兩の恩貸あり。大番頭細川長門守正興。高木主水正剛坂城より在番はてゝ歸り謁す。同じ與頭番士も同じ。○三

松平康人

日一橋門外間地に成らせられ。御拳雀二羽提給ひ。それより番街樂園御通行あり。留守居番矢橋遠江守良金子熊之助。先手頭瀬名傳右衛門貞刻養子鐵之丞。寄合井出半兵衛政峯子鍬五郎政安。西城小納戸玉田忠四郎盛章養子平三郎はじめ。父死して家つぐもの十四人。○六日美作國津山城主松平越後守康人請置しまゝに。養子愼三郎克孝に遺領五萬石をつがしむ。この

○八日東叡山　浚明院殿靈廟に戸田采女正氏敎代參す。奏者番水野左近將監忠鼎病により。奏者の事免されて雁間班となる。小普請より小姓組に入るもの十八人。西城小姓組に入るもの九人。○九日高家宮原長門守義潔孫仙之丞あらたにめし出されて高家見習命ぜられ祿五百苞を下さる。○十日小普請設樂吉之助能得表右筆となる。

○十二日三緣山　惇信院殿靈廟に牧野備前守忠精代參す。清水勤番支配市岡丹後守房仲は旗奉行となり。中奥小姓松平因幡守康盛は百人組の頭となり。先手頭小野安藝守近義は清水勤番支配となる。○十三日御側本郷丹後守泰行して。德川右衛門督齊匡卿の方にて。こたび男御子御降誕により。御悅としてつかはさる。○十五日月次の賀例のごとし。松平甲斐守保光參覲す。小笠原信濃守長禎。本多大和守忠居就封の暇たまふ。松平愼三郎克孝。堀田相模守正時捧物して家つぎしを謝してまみえたてまつる。愼三郎克孝。相模守正時の家士等同じく拜し奉る。木下定太郎養子東五郎初見したてまつる。交代寄合溝口辰藏直靜大番頭となる。○十七日紅葉山　御宮に牧野備前守忠精代參す。西城目付松浦猪右衛門忠先手頭となる。○十九日さきに田安邸にて男御子出生あり。けふ七夜の祝として。　御所より御名まいらせられ益千代殿と稱せらる。けさ戸田采女正氏敎御使し。出生のかたへ相模國綱廣の御刀。美濃國吉眞の御さしぞへ。白銀二十枚。二種千疋。右衛門督齊匡卿に白銀二十枚。二種千疋。おなじ北のかたに卷物五。一種千疋を贈らせらる。同じ北のかたへ卷物五。一種千疋。又西城よりも安藤對馬守信成御使して。益千代殿へ盛光の御さしぞへ。白銀二十枚。二種千疋。右衛門督齊匡卿へ二十枚。二種千疋。同じ北の方へ卷物五。一種千疋。御使は同じさまなり。　御臺所より益千代殿へ白銀三十枚。二種千疋。齊匡卿へ二十枚。二種千疋。北の方へ卷物五。一種千疋。又右衛門督方より家士して。　御所へ卷物五。二種千疋　。大納言殿。　臺の上に卷物五。一種千疋づゝ。北の方より　御所。大納言殿。　臺の上に一種千疋づゝ。○廿二日久世大和守廣譽就封の暇下さる。西城小姓組番頭格押田豐後守勝融養子幾三郎。一橋邸家司飯田能登守易信養子大次郎。　御臺所御用人丸毛肥前守政良孫岩之助。西城目付大河內善十郎政良子八百八。徒士頭長坂血鑓九郎信義子彥五郎。船手頭杉山藤之助正久養子大之進はじめ。其他初見のもの多し。○廿三日　大納言殿淺草の邊へ成らせらる。この日大坂金奉行勝屋庄左衛門成庸後閣の番の頭命ぜらる。小普請より腰物方にいる者一人。又小納戸根來內膳。本多喜太郎玄堅病免す。○廿四日東叡山　孝恭院殿靈廟に少老松平能登守乘

保代參す。○廿五日東叡山　浚明院殿御實塔正遷座により。　靈廟に靑山下野守忠裕代參す。○廿六日　浚明院殿正遷座供養により。牧野備前守忠精代參す。戸田采女正氏敎御使し。施物として日光門主に銀二百枚をおくらせられ。僧中へも銀子を下さる。○廿七日小納戸神保新五左衛門病により奥務をゆるさる。○廿八日奥右筆見習ふ石川富三郎政元西城奥右筆となる。○廿九日　番醫田中俊庵玄鉤日光門主御登山のをり添て參るべしと命ぜらる。○九月朔日月次の賀例の如し。松平肥後守容衆家つぎしを謝して。豐後國實行の刀。馬。卷物。白銀をたてまつりて見えたてまつる。其家士迄も拜謁す。本多中務大輔忠顯參覲す。織田左衛門佐長宇。寄合花房數馬職陽。松平晴三郎は駿城加番の事命ぜられ暇給ふ。賜物舊に同じ。立花左近將監鑑壽養子友之丞鑑賢はじめて見えたてまつる。馬預諏訪部文右衛門は　大納言殿御馬。淑姫君御用人福村理大夫正慰は御馬の御相手を命ぜらる。寄合松平孫大夫勘滿西城目付となる。○二日重陽の御祝として。三家のかたゞ〳〵はじめ。萬石以上のともがら使して時服たてまつる。　大納言殿へも同じ。日光門主近々御登山により。高家宮原長門守義潔御使して葡萄一籠を贈らせらる。○三日王子のほとりへ　兩御所成らせらる。御拳は鶉七羽なり。高家前田信濃守長禧子靱負。小姓組番頭阿部志摩守正章養子玖十郎。寄合春田猪左衛門利恭子專藏直勝はじめ。父死して家つぐもの十一人。○四日重陽の御祝として。日光門主使して二種一荷をまいらせらる。また門主御登山によりまうの

水野忠鼎致仕
木下利徽致仕

ぼらる。御對面ありて後饗せらる。この日初瀨小池坊塔中金蓮院精運阿州通法寺後任命ぜらる。○五日　兩御所吹上の庭園に成らせられ。それより一橋神田の兩邸に過らせられて戌の牌に還御なる。又肥前國唐津城主水野左近將監忠鼎致仕す。所領六萬石はその子式部少輔忠光に繼しむ。この　備中國足守領主木下定太郎利徽病により致仕す。所領二萬五千石はその養子東太郎利德につがしむ。この利徽は

○七日小普請より納戸番となるもの一人。○八日東叡山　浚明院殿靈廟に御詣ありて御寶塔を御覽ぜらる。おなじ山の　嚴有院殿靈廟に土井大炊頭利厚代參す。高家戸田備後守氏倚は日光山　御宮代參使。酒井縫殿頭忠質は祭祀の奉行命ぜられ。賜物有て暇下さる。○九日菊節の御祝規の如し。西城小十人頭久留源三郎正邦けふ檜の間にして宿老謁見のをり。心づかずに行かゝりしを咎められて御前をとゞめらる。○十日東叡山　常憲院殿靈廟に戸田采女正氏敎代參す。○十一日駒場野へ放鷹として　兩御所成らせらる。御物數鶉二羽狩捉給ふ。　大納言殿には同じ所に御出遊あり。萬年記　○十二日三緣山　惇信院殿靈廟に土井大炊頭利厚代參す。紅葉山文昭院殿。　有章院殿。　惇信院殿靈廟修築功なりて正遷座により。戸田采女正氏敎代參す。○十三日紅葉山　靈廟正遷座供養により。土井大炊頭利厚代參す。○十四日三緣山　昭德院殿靈廟に戸田采女正氏敎代參し。　清揚院殿靈牌所に奏

時之助卒

者番水野壹岐守忠韶代參す。紅葉山　文昭院殿　有章院殿　惇信院殿靈廟正遷座すませられしによて。奏者番堀田豐前守正穀して。增上寺方丈へ施物に白銀五千枚。かつ僧中へも銀子を下さる。時之助君此程わづらはせたまひしが。けふ巳の下刻ばかりにつひにかくれさせたまひぬ。こは　御所十八の御子にして。享和三年八月朔日生れさせたまふ。御母はおてふのかた。同じ十一月朔日御色直し。十二月朔日御箸初ありて。けふ三歳にして逝せられしなり。○十五日すこしく御疝痛の御なやみによて御表に出たまはず。三家のかた〴〵はじめ。月次出仕のともがら宿老に謁して退く。甲府勤番支配松平侶之允忠能。日光奉行仙石彌兵衛久功。浦賀奉行酒井近江守忠頼ともに赴任の暇下され賜物あり。念入れよとの御詞のおもむき宿老これを傳へ。おのおの叙爵せしめられ。侶之允忠能は伊豫守。彌兵衛久功は大和守とあらたむ。この日時之助君天淵院殿と謚し奉る。○十六日　天淵院殿御遺骸を東叡山凌雲院に送りまいらす。○十七日紅葉山　御宮に御詣のさまなりしが。少しく御疝癪により土井大炊頭利厚代參す。牧野備前守忠精は紅葉山　靈廟修築惣督の事奉はりしによて時服を賜ふ。○十八日三家の方々使して。物そへて口切茶をたてまつらる。この日大番與頭松平市三郎正意。大番大久保熊(マヽ)子郎忠拱身の行ひよろしからざるをもて。小普請に入り御前をとゞめらる。○十九日小普請の輩取扱ふ山本儀助勝房大坂金奉行となる。○二十日東叡山　大猷院殿　有德院殿靈廟に牧野備前守忠精代參す。留守居

酒井忠德致仕

番齋藤長八郎總良は西城先手頭となり。西城先手頭牧野大學成知は鑓奉行となり。西城目付細井豐前守正房は留守居番となる。松平政千代が祖母きのふうせしかば　御臺所には御養方の御伯母にあたらせられしにより喪に籠らせらる。萬年記○廿一日紅葉山　御宮　靈廟に御詣あり。高家戸田備後守氏倚。祭祀奉行酒井縫殿頭忠質日光山よりかへり謁す。○廿三日　傳通院淸泰院の方水戸中納言頼房卿御女。院殿の御養女。加賀少將光高室。大猷の百五十回忌御法會により。奏者番水野壹岐守忠韶代參す。おなじ事により松平加賀守齊廣まうのぼり謝し奉る。○廿四日三緣山　台德院殿靈廟に土井大炊頭利厚代參し。東叡山　孝恭院殿靈廟に少老京極備中守高久代參す。日光門主御歸寺ありしによて。高家今川丹後守義彰御使して慰勞せらる。○廿五日濱の庭園に成らせらる。御鷹を放たれ諸鳥若干狩捉給ふ。日光門主御歸寺ありしによて。使して薯蕷一匣をたてまつらる。出羽國庄內城主酒井左衛門尉忠德病によて致仕の請をゆるされ。所領十四萬七十石餘をその子攝津守忠器に繼がしむ。この　御所より　大納言殿へ御側美濃守頼長○廿六日日光門主御歸寺によりまらのぼられ。饗せられて御對面あり。小納戸高井山城守實德西城目付となり。勘定組頭松山惣右衛門直義同じ吟味役となる。○廿七日松平加賀守齊廣使して。口切茶をたてまつる。小石川藥園監芥川小野寺元珍老免して褒銀あり。子同じ職見習ふ長春元智父の原職命ぜらる。○廿八日去りし廿五日御成のをり鳥射し番士二人時服を下さる。此日

御使して。縮緬二種一荷進らせらる。御素讀濟せられしによりてなり。○廿九日日門へ本月御祈禱料として銀百枚をおくらせらる。御使は高家大澤下野守基季なり。○晦日三緣山　有章院殿靈廟に戸田采女正氏敎代參す。◎十月朔日月次の賀例のごとし。松平相模守齊邦はじめ參覲のもの三人。酒井左衛門尉忠器。水野式部少輔忠光襲封を謝しておの〳〵馬一匹。綿。黃金をたてまつりて見えたてまつる。左衛門尉忠器が家士。式部少輔忠光が家士拜謁す。柳生但馬守俊則養子久次郎俊豐初見す。高野學侶方悉地院。同じ學侶方惠光院在番代を謝し。阿州通法寺住職を謝しともに束卷を獻ず。使番坂本小大夫直諒。小姓組榊原隼之助忠之大坂目付はて〻歸り謁す。○二日大川のほとりへ成らせらる。箱崎田安邸別墅にて御膳を奉る。御拳鴨鷺なり。○三日駿府城代安藤伊豫守直久孫將曹。小姓組番頭溝口相模守直舊子西城小姓金彌直道。旗奉行太田駿河守資倍子彦十郎資寧。寄合安部主膳信旨子千藏信徧。二丸留守居山本織部勝明子安兵衛はじめ。父死して家つぐもの十五人。○四日三緣山貞恭院殿紀伊大納言治寶卿籠中。十三回忌取こしの法會。紀伊中納言治寶卿執行はせらるゝにより。中納言治寶卿のもとに靑山下野守忠裕御使して香銀卅枚をおくらせらる。　臺の上よりも同じ。員數詳ならず。○五日御誕辰の御祝として。高家。詰衆。奏者番。布衣の士その他のともがら席々にして祝酒を下さる。奥にて能の御遊あり。○八日東叡山　浚明院殿靈廟に靑山下野守忠裕代參し。三緣山貞恭院殿御法會結願により。土井大炊頭利厚代參す。おなじ事によて三家のかた〳〵使まいらす。今宵玄猪の御祝規のごとし。○九日濱の庭園に成らせらる。右衛門督民部卿のかたにも陪遊せらる。御拳の鴨四羽なり。兩卿にも諸鳥若干捉得らる。奥右筆を見習ふ河原隼人篤本職となる。○十一日去りし九日御成のをり鳥射し番士一人時服をたまふ。○十二日三緣山　惇信院殿靈廟に戸田采女正氏敎代參す。○十三日寄合平井五郎兵衛克寛。小姓組小幡次郎助直道。大久保三九郎定恒。朝倉善太郎俊光。柴田藏人勝峯。大澤忠次郎基朝。宇田川虎五郎定能。西城小姓組三枝傳藏守長。村越只次郎成富。書院番水野要人忠一。加々爪右京政方。島田玄蕃利長。曾根孫兵衛。小幡帶刀正直。藥師寺次郎左衛門元則。西城書院番細井佐次右衛門勝延。高井新十郎忠郷。天野三郎兵衛康哉。本田權兵衛。長田十之丞守安。新番飯室龜三郎昌春。納戸深見新八有能。佐野留五郎政備。小野久内由壽。小普請鳥居仙之丞。竹田次郎左衛門。大岡八十一郎忠美。竹田直五郎。水野岩之丞小納戸となり。又西城小姓組番頭格押田豐後守勝融養子幾三郎。一橋邸家司飯田能登守易信養子大次郎。町奉行小田切土佐守直年子鍋五郎直熙。小姓太田信濃守好行子善大夫好長。一橋邸用人川口七郎左衛門信峯子萬五郎。西城納戸方井關乙三郎親與子富之助親經は召出されて。おなじ小納戸に入らる。この日淑姫君本城にいらせ給ふ。○十四日三緣山　文昭院殿靈廟に御詣あり。○十五日月次の賀例のごとし。山田遠江守豐武。寄合藪三郎右衛門忠恒。大島兵庫義德駿府加番はて〻かへり謁す。駿府城代內藤甲斐守正範時ふく羽折を

下され。初て赴任の暇たまふ。この日　臺のうへ吹上にして神田明神の祭祀を密に御覽あり。例はこの月十五日にあるべきを御新送によりけふに及べり。萬年記○十六日西城書院番大久保三市郎小納戸となり。田安邸番頭萬年七郎左衛門賴良子長十郎賴穆めし出されて同じく小納戸となり。西城旗奉行渡邊圖書頭貞綱孫主計は中奥番となる。○十七日紅葉山　御宮に青山下野守忠裕代參す。○十九日小普請奉行蜂屋近江守成定。目付仙石次兵衛久貞。勘定吟味役岡松八右衛門久稠。紅葉山　靈廟修造の事つとめしによて。おの〳〵時服金を下さる。その他畫工奥右筆および所屬のともがらにいたるまで賜物差あり。先手頭荒尾但馬守成章火賊捕盜の事。明のとしの三月までつとむべしと命ぜらる。○二十日火消役石川兵庫總明病免して寄合となる。大番長坂孫七郎朝貞同じ與頭となる。○廿一日重陽の御祝として時服たてまつりし三家のかた〴〵はじめ。萬石以上のともがらに御内書をたまひ。　大納言殿より奉書をわたさる。この日淑姫君かへらせたまふ。○廿二日寄合醫太田玄達惟能西城奥醫となり。拜謁醫小島活安めし出されておなじく西城奥醫となり祿二百苞を下さる。松平越前守治好はじめ十二人へ。使番して御鷹の雁給ふ。○廿四日東叡山　深德院殿靈牌所に青山下野守忠裕代參し。池上本門寺の　御墓に御側林肥後守忠勝代參す。又東叡山　孝恭院殿靈廟に少老立花出雲守種周代參す。松平肥後守容衆御けしき伺としてまうのぼり見え奉りて。祖父肥後守容頌年久しく篤實勤務せし事をもて。かね〴〵ねむごろの御詞を下さるべき御あら

加藤千蔭萬葉集略解を献ず

ましなりしを。御名殘おしく思召。尙家政を念入べしとの特旨とぞ聞へし。○廿五日吹上にして大的御覽あり。○廿六日江戸崎大念寺原澄京黑谷金戒光明寺へ。增上寺伴頭顯了江戸崎大念寺へ共に住職を命ぜらる。○廿七日濱の庭園に成らせらる。御物員鴨大小鷺を狩捉給ふ。○廿八日使番にて火災巡視奉りし水野虎之助忠篤目付となり。小姓山本伊勢守道好徒士頭となる。使番して松平播磨守賴說はじめ十一人へ雁を下さる。○廿九日三家のかた〴〵へ御使して御拳の鴨を贈らせらる。去りし廿七日御成のをり鳥射し番士二人時服を下さる。◎此月町奉行隊下與力加藤又左衛門千蔭。己が著したる萬葉集畧解三十卷をおほせごとによりて進呈せしかば白銀十枚をたまふ。かかることはためしもなければ。かしこさもかたじけなさもいはんかたなくて。みめぐみの露にしぐれて神無月ならの落葉もいろやそふらんといふ歌よみしとぞ。◎十一月朔日月次の賀例のごとし。松平主膳正近義參覲す。松平右京亮輝延養子酒之丞輝健。松平伊賀守忠濟子幸之助忠英。松平壹岐守定剛子安次郎定之初見したてまつる。寄合中門番奉はりし岡部主税美勝火消役となる。江戸崎大念寺東本獻じ住職を謝し奉る。この日淺姫君髮置の御祝に。　御所よりしら賀。一種千匹女使してつかはさる。淸水勤番組頭より菊千代殿の近習番となる者二人。○二日井伊掃部頭直中始め六人へ。使番して雁を下さる。○三日小普請奉行有田播磨守貞勝。目付土屋帶刀直廉。東叡山　浚明院殿靈廟修築の事つとめしによて時服金を賜ふ。屬吏等賜物差あり。西

水戸治保薨

城目付小納戸天野彌五右衛門昌著子千太郎はじめ。父死して家つぐ者九人。水戸中納言治保卿御所勞により。御側白須甲斐守政雍御使して尋問せらる。西城よりも同じ。此日小普請より西城小納戸に入もの二人。○四日水戸中納言治保卿の病をとはせられて。御側大久保豐前守忠溫御使して生乾鱚魚おくらせらる。同じ邸より家士もて御尋。及び西城よりの御使をも謝し奉る。又使番して松平遠江守忠告始め十三人へ雁を下さる。○五日水戸中納言治保卿病危篤によて。中納言（大字缺歟）治保卿。中將治紀卿のもとに。土井大炊頭利厚御使して問はせらる。　大納言殿。　御臺所よりも同じ。小納戸關傳藏儔義。石谷市右衛門清茂。美濃部十右衛門茂育。村越只次郎成高。臼井喜内。加加爪右京。細井佐次右衛門勝延。深見新八有能。押田幾二郎。井關富之助親經西城に遷り。番外科桂川甫謙國寳同城奥醫となる。○六日水戸中納言治保卿けさとくかくれさせ給ひしにより。中將治紀卿のもとへ。青山下野守忠裕御使してとはせらる。鶴千代のかたへも同じこと仰進らせらる。又紀伊中納言治寳卿に書院番頭津田山城守信久。尾張中將齊朝卿に小姓組番頭水野石見守貞利。松平讃岐守頼儀に松平播磨守頼說。おなじ父致仕右京大夫頼前に使番青山牛大夫成呂。松平大學頭頼愼に長崎半左衛門元居。松平中務大輔義和に使番日野部織部弘篤。松平靭負佐頼敬。同じ父致仕大翁頼救に本多作左衛門御使しおなじ事仰つかはさる。けふより音樂停廢せらるゝ事七日。營作は三日なり。

水戸治保の逸事

〔常陸水戸徳川家譜〕云。

治保　英之允　鶴千丸（代歟）

寳暦十二年閏四月廿八日從五位上左衛門督。
同十三年十二月十五日正四位下左近衛權少將。
明和三年十二月十五日從三位權中將。
同五年十二月朔參議。
寛政七年十二月十一日權中納言。
文化二年十一月朔逝去。五十五歳。私謚文。
簾中八代姫。一條准后道香女。

治保中納言。字ハ子安。小名ハ英之允。宗翰中將ノ長子ナリ。寳暦元年江戸小石川ノ邸ニ生ル。是歳立テ世子トナル。十二年元服ヲ加ヘ從五位上ニ叙シ左衛門督ニ任ズ。明年正四位下ニ進ミ。左近衛權少將ニ除ス。明和三年封ヲ紹ギ從三位ニ叙シ。權中將ニ轉ズ。五年參議ニ拜ス。中將故ノ如シ。寛政七年權中納言ニ任ズ。文化二年十一月江戸ノ邸ニ薨ズ。年五十五。私ニ謚シテ文公ト曰フ。納言聰明仁恕。物ニ體ス。其世子トナル。父中將儒ニ命ジテ輔導シ。勉ムルニ文學ヲ以テス。長ズルニ及ビ博聞强記。廣ク衆藝ヲ綜ベ。旁ラ武技ヲ善クス。既ニ藩職ヲ襲ギ。適々國用匱乏ノ餘ヲ承ケ。精ヲ勵マシ治ヲ圖リ。祖業ヲ弘宣セントス。園囿狗馬ノ玩ヲ屏ケ。文武ヲ奬勵

シ農桑ヲ勸課ス。而シテ其國ニ在ル日少ナキヲ以テ。屢々有司ヲ藩ニ召シ。面ノアタリ時務ヲ訪問シ。或ハ書ヲ下シテ戒勵ス。武士一藝ニ長ズル者ハ。其階級ヲ進メ、多ク近臣トナス。文人儒士ヲ拔擢シ。皁賤ト雖ドモ遺スヿナク。之ヲ邸中ニ召シ以テ顧問ニ備フ。毎月望日儒臣ニ命ジ經ヲ殿中ニ講ジ。執政及諸有司ヲシテ之ヲ聽カシム。又孝子貞婦ニ賞賜シ。其行狀ヲ史官ニ付シ。記述シテ以テ之ヲ頒行ス。是ニ於テ風化大ニ行ハレ人材踵ギ出ヅ。治教ノ美殆ンド西山大納言ノ世ニ比ス。舊制郡奉行ヲ置キ民政ヲ掌ラシメ。代官ヲ置キ其租稅ヲ收ム。事兩端ニ分レ民ニ便ナラズ。且奉行常ニ府下ニ居リ民ニ親マズ。是ニ至リ命ジテ代官ヲ廢シ奉行ヲ增置キ。民事一切之ニ委任シ。而シテ其職ヲ命ズルモ唯其才ヲ用ヒ資格ニ拘ハラズ。又郡廳ヲ各處ニ設ケ。奉行ヲシテ就テ之ヲ治メシム。初メ郡奉行代官等金ヲ民ニ貸シ歲々其息ヲ收メ。久フシテ貸金漸ク積リ。息ヲ出スコト增々多ク。吏之ヲ收責シ大ニ疾苦ヲナス。納言之ヲキヽ。即チ命ジテ其本金ノ半ヲ捐テ以テ民ニ與フ。民大ニ悅ブ。其佗民害ヲ除ク。此類頗ル多シ。常野ノ俗貧民或ハ其子ヲ擧ゲザル者アルヲ惡ミ。謂ク。自ラ其子ヲ賊スルハ禽獸モ爲ザル所ナリ。人トシテ之ヲ忍ブハ抑々何ノ心ゾヤ。此唯國ノ耻辱ノミニ非ズ。天譴モ亦畏ルベシト。乃チ町奉行郡奉行ニ命ジ育子ノ法ヲ議セシメ。其尤モ貧シキ者ハ給スルニ米穀ヲ以テシ。篤ク之ヲ諭シ其惡俗ヲ洗除ス。是ニ於テ生齒年ニ蕃フ。民皆其德ニ感ズ。當時博奕禁弛ミ。博徒村邑ニ聚居シ。人ヲ傷ツキ財ヲ奪ヒ。民之ガ爲ニ產ヲ破ル者甚多シ。乃チ命ジテ其制ヲ嚴ニス。幾バクナラズ其風大ニ改マリ。兇徒皆良民トナル。居恒心ヲ刑獄ニ用ヒ。獄吏苛察ヲ事トシ聽斷日ヲ曠フシ。輕罪ノ者或ハ牢死ニ至ルヲ憫ミ。有司ニ諭シテ。重罪ヲ除クノ外務メテ寬宥ニ從ヒ。生路ヲ求ムルヲ以テ斷獄ノ準的トナサシム。嘗テ北虜ノ邊患ヲナサンヿヲ慮リ。人ヲ蝦夷地ニ遣ハシ其情狀ヲ察セシム。使者北地ヲ跋涉シ遠クエトロフウルップ諸島ニ至リ還リ。始テ其地理風俗ヲ審ラカニスルヿヲ得タリ。其心ヲ內外ニ用ユルヿ此ノ如シ。天明ノ末文恭公幼冲ヲ以テ位ヲ嗣ギ中外事多シ。納言宗室ノ宿望ヲ以テ。尾紀二公ト心ヲ合セ幕府ヲ夾輔シ。奸諛ヲ貶黜シ忠良ヲ登用ス。是ニ於テ紀綱悉ク張リ弊政大ニ改マル。時ニ公族松平定信賢明ヲ以テ首相トナリ。尾紀二公皆時望アリ。故ニ世納言ト併セ稱シテ宗室四賢トス。而シテ一善政出ル毎ニ。輿論多ク美ヲ納言ニ歸ス。其職ニ在四十年。恭儉ノ性憂勤ノ志終始一ノ如シ。德望久シク人心ニ孚ト(マヽ)、セラレ。朝野倚賴シ以テ國家ノ柱石トス。薨ズルノ日遠近聞ク者痛惜セザルハナシ。子治紀。保右。彥直。治紀ヲ以テ嗣トス。保右ハ尾張ノ支藩攝津守義居ノ養子トナル。彥直ハ土屋寬直ノ家ヲ嗣ギ相模守ニ補ス。女子一ハ支流讃岐守賴起ニ嫁シ。一ハ支流式部大輔賴愼ニ嫁ス。

宗賢の四賢

この日初雪ふりしかば。高家。詰衆。奏者番まうのぼり御けしきうかゞふ。日光門主は使まいらせ。紀尾のかたゞ〳〵おなじく使してもの進らせらる。〇七日水戸黃門の事に

土井利貞致仕

菊千代（紀伊齊順）袴着を行ふ

よて。日光門主。尾張中將齊朝卿。紀伊前中納言重倫卿より使まいらせ。紀伊中納言治寶卿はじめ。群臣皆出仕ありて御けしきうかゞふ。水戸中將治紀卿のもとに。牧野備前守忠精御使して。香銀五十枚をおくらせらる。○八日東叡山　浚明院殿靈廟に土井大炊頭利厚代參す。越前國大野城主土井能登守利貞病により致仕の乞を允され。所領四萬石はその養子中務少輔利義につがしむ。この利貞は故伊賀守利寛が嫡男にして。幼名は岩之助といふ。延享三年十月十八日襲封し雁の間の班に列り。同じ年十二月十八日從五位下に叙し能登守に任じ。寶曆の九年三月懇願のまゝに就封し。卷物五賜はり。西城よりも三を賜ひ。文化四年十一月五日卒す。歳六十九。同日小普請より大番に入もの十三人。○十日諸番より新番にうつるもの十人。鷹匠組頭花井庄左衛門定英富士見寶藏番の頭となり。賄調役川澄新五郎忠智御膳所臺所頭となる。○十一日御側岡部因幡守長貴御使して。水戸中將のかたに檜重。同じ鶴千代のかたに干菓子をおくらせらる。　大納言殿よりは西城御側曾我伊賀守助簱してその制中を問はせらる。○十二日增上寺　惇信院殿靈廟に牧野備前守忠精代參す。使番彦坂三大夫紹芳火災巡視の事命ぜらる。○十五日月次の賀例のごとし。土井中務少輔利義家つぎしを謝して見えたてまつる。その家士等も拜み奉る。此日大奥にして菊千代君袴着の式あるにより。　御所より　大納言殿へ鮮鯛。　御臺所へ一種千匹。淑姫。峯姫。一橋治濟卿。田安齊匡卿。民部卿齊敦卿。松之助の方へ鮮鯛。　大納言殿より菊千代の

方へ卷物十。　御所。　臺の上。峯姫方へ鮮鯛。　臺の上より菊千代の方へ卷物十。一種千匹。　御所へ一種千匹。　大納言殿。淑峯兩姫。治濟卿。齊匡卿。齊敦卿。松之助方へ鮮鯛。淑姫の方より菊千代の方へ一種。　大納言殿へ馬資の金。卷物三。　御所。　臺の上。淑姫の方へ鮮鯛。菊千代殿より　御臺所。峯姫の方へ一種づゝ。一田神三邸。幷松之助方へ一種千匹。淑峯兩姫貞章院尼。乘蓮院尼。久之助の方へ。近幹兩姫へ一種づゝ。一田神三邸及び松之助の方へ各一種。田邸北方乘蓮院尼久之助近幹兩姫へ一種づゝ。　御所より產婦へ卷物五。　臺の上より同三。菊千代の方より產婦へ一種。產婦より菊千代殿へ同じ。一橋神田田安三卿松之助方より。　御所。　御臺所へ鮮鯛なり。又おなじ御祝に京極備中守高久に卷物五を下さる。この日使番して松平勘四郎はじめ四人。鷹にて捉賜ひし雁を下さる。○十六日勘定がた若林源内友矩老免して小普請に入り褒銀あり。この日　兩御所吹上の園にて仙臺の馬を視給ふ。○十七日紅葉山　御宮に土井大炊頭利厚代參す。日光門主使して口切茶に蜜柑をそへまいらす。この日碁將棊のものしてその技を鬪はしむ。○十八日寒に入りしかば。溜詰。高家。詰衆。奏者番まうのぼり。紀尾のかた〳〵使し御けしきうかゞはる。日光門主使してものまいらせらる。增上寺方丈よりもおなじ。兩番より進物番に入るもの十六人。けふ辰刻に清水の官邸に成らせ

若年寄立花種周旨に杵ひて職を免じ御前を憚らしむ

らる。菊千代君同じく入らせらる。○十九日田安右衛門督齊匡卿御女近姫のかたをもて。一橋民部卿齊敦卿嫡子松之助君へ嫁娶の事仰出されしによて。牧野備前守忠精。土井大炊頭利厚御使して。右衛門督民部卿の邸につかはさる。右衛門督民部卿謝恩としてまうのぼられ御對面あり。同じ事によて紀尾のかた〳〵使まいらせ。高家。詰衆。奏者番。布衣以上の輩祝したてまつる。この日少老立花出雲守種周おぼしめす旨ありて職とかれて御前をとゞめらる。○廿日水戸中將治紀卿の制中を問はせられて。御側本郷大和守泰行御使して砂糖漬葛粉をおくらせらる。この日吹上添奉行河合幸右衛門邑元子松太郎邑告父の職を見習はしめらる。よりて二十人口を下さる。○廿一日木下川のほとりへ放鷹として成らせらる。御拳は鴨鷺なり。寄合奥田主馬高武同僚の指揮命ぜらる。○廿二日奥にして宿老戸田釆女正氏敎。牧野備前守忠精。土井大炊頭利厚。青山下野守忠裕。安藤對馬守信成に御鷹の鷹を賜ふ。○廿四日東叡山　孝恭院殿靈廟に少老堀田攝津守正敦代參す。表高家織田式部子數馬はじめ。父致仕して子家つぐもの二十二人。○廿五日去りし廿一日御成のをり鳥射し番士一人時服を下さる。水戸中將の制中を問はせられて。御側白須甲斐守政雍御使して麻地飴をおくらせらる。寒氣を問はせられて。東叡三緣兩山に使して檜重をおくらせらる。この日吹上の花圃にならせられ南部馬を御覽あり。　大納言殿にもおなじ。○廿六日勘定荻野伴右衛門直政老免して小普請に入り褒銀あり。○廿七日脇坂中務大輔安董に雁を下さる。○廿八日小松川の邊へ放鷹として成らせらる。御物員は立石と名付し鷹にて黑鶴雁を狩捉給ふ。大番小普請より納戸がたに入るもの四人。奥州馬牽入れの事つとめし松平政千代が家人等時服銀子を下さる。具足奉行大塚彌惣友次病免す。○廿九日奥にして少老松平能登守乘保。井伊兵部少輔直朗。京極備中守高久。堀田攝津守正敦。西城少老植村駿河守家長。青山大膳亮幸完に御鷹の雁を賜ふ。奥州馬牽入れの事つとめし南部大膳大夫利敬が家人等時服銀子を下さる。○晦日小普請西玄長定寧番外科となる。奥醫栗崎道有養子道樞めし出されておなじく番外科となる。祿二十口を下さる。去りし廿八日御成のをり鳥射し番士一人時服をたまふ。○十二月朔日月次の賀例のごとし。川渠浚利の助役の事つとめし松平大和守直恒。小笠原伊豫守忠固。中川修理大夫久敎。岡部左膳長愼。松平立丸定則。奥平大膳大夫昌高。土屋保三郎寛直おの〳〵時服を下さる。五島大和守盛運參覲す。那須衆一人も參謁す。紀伊中納言治寶卿のもとに。小姓組番頭小笠原若狹守成信御使して御鷹の鶴をおくらせらる。○三日歲暮の賜物例のごとし。○四日槍奉行梶川庄左衛門秀澄（子爵）子庄五郎。寄合津輕吉之助典曉養子三十郎親定。目付澤次郎右衛門幸純鎌之助。美濃郡代辻六郎左衛門富守養子甚太郎守貞はじめ。父死して家つぐもの十人。この日小笠原近江守貞溫雁を下さる。鷹師山本又十郎同じ與頭となる。○五日千住のほとりへ放鷹として成らせらる。御拳は茶筅林高架と名付し鷹もて鶴貳羽を狩捉給ふ。歲暮の褒賞例のごとし。○六日小姓組番頭小笠原若

狹守成信御使して。尾張中將のもとに御鷹の鶴をおくらせらる。○七日去りし五日御成のをり鳥射し番士二人時服を賜ふ。松平大隅守齊宣雁を下さる。○八日東叡山浚明院殿靈廟代參使の事。うち〳〵御產穢によて立られず。新番頭小野飛驒守則武旗奉行となり。持筒頭大久保大隅守景章新番頭となり。先手筒頭久松忠次郎定安持筒頭となり。徒士頭須田三十郎盛鷹先手筒頭となり。船手頭服部賴母貞勝徒士頭となり。小納戸立花大吉種鄕船手頭となる。大吉種鄕は官料これまでの如く下さる。賴母貞勝は久右衛門と改む。小普請より西城書院番に入る者十三人。○九日濱の庭園に成らせらる。鷹を放たれて諸鳥若干を狩らせ給ふ。○十日水戸中將治紀卿のもとに。土井大炊頭利厚。戸田采女正氏敎御使して。遺領相續の事仰つかはさる。又紀伊中納言治寶卿に靑山下野守忠裕。尾張中將齊朝卿に戸田采女正氏敎御使して。同じ事を仰つかはさる。○十一日歲暮の御祝として。紀尾のかたゞはじめ。萬石以上のともがら時服をたてまつる。　大納言殿へも同じ。水羽林はきのふ遺領相續の事仰出されしを謝せられてまうのぼり。御座所にして御對面あり。おなじ鶴千代のかたにはおなじ事および制中御たづねの御使を謝して使まいらす。紀伊中納言治寶卿は　御臺所より歲暮の御使を謝して使まいらす。去りし九日御成のをり鳥射し番士二人へ時服を賜ふ。○十二日增上寺　惇信院殿靈廟に靑山下野守忠裕代參す。作事下奉行〔〕井又五郎老免して褒銀あり。○十三日龜有のほとりへ放鷹として成らせらる。御得物眞鴨小

板倉勝意卒

西丸若年寄植村家長本丸附に轉ず

鴨なり。日光門主に高家日野伊豫守資施。紀伊黃門に小姓組番頭戸田出羽守光弘。尾張羽林に書院番頭森川下總守俊世。增上寺方丈に使番戸田主稅助氏昌御使して八代蜜柑を贈らせらる。紀邸及び增上寺方丈まうのぼられ老臣に謁し退かる。羽林は使まいらせて謝し申さる。小普請より大番に入る者一人。○十四日上野國安中城主板倉主計頭勝意卒す。遺領三萬石は其子伊豫守勝尙に繼がしむ。此勝意はもとの從四位下伊勢守勝曉の養子にして。實は佐渡守勝淸の六子なり。天明四年十二月十五日はじめて見え奉り。同じ五年十二月十八日爵賜はりて伊豫守と改め。文化元年の十一月廿五日主計頭と改め。同じ二年十月廿日年五十一にして終をよくす。奧醫廣井宗意病免す。川渠浚利の助役勤めし松平大和守直恒。小笠原伊豫守忠固。松平立丸定則。奧平大膳大夫昌高。土屋彌三郎寬直。中川修理大夫久敎。岡部左膳長愼の家人等銀時服羽織賜はる事差あり。此日吹上の庭園にして騎射御覽あり。○十五日月次の賀例の如し。松平大隅守齊宣川々修築助役の事つとめしによて時服を賜ふ。久世大和守廣譽はじめ參覲のもの九人。那須衆二人參謁す。五島大和守盛運子繁千賀盛繁初見したてまつる。使番小笠原政之助直信駿府目付はてゝかへり謁す。去りし十三日御成のをり鳥射し番士一人時服を下さる。きのふ騎射御覽ありしによて。其師寄合小笠原平兵衛常方に時服を賜ひ。射手の輩廿四人へ金を下さる。西城少老植村駿河守家長本城に遷る。小姓組夏目外記信行おなじ與頭となる。駿河守家長の事。布衣以上上直のともがらへ

芙蓉間にして。宿老列座して牧野備前守忠精これをつたふ。〇十六日松平肥前守齊直侍從に任ず高家宮原仙之助義周從五位下侍從に叙任し兼攝津守とあらたむ。從四位下に叙するもの四人。松平土佐守豐雍子邦之丞豐策は筑後守。松平愼三郎克孝は越後守。松平越中守定信子太郎丸定永は式部大輔。小笠原伊豫守忠固（脫字歟）なり。從五位下に叙する者廿九人。岡部左膳長愼は美濃守。松平伊豆守信明子長次郎信順は駿河守。立花左近肥後守。酒井與八郎忠寧は信濃守。松平右京亮輝延養子酒之丞輝健は攝津守。松平伊賀將監鑑壽子友之丞鑑賢は伯耆守。松平右京亮輝延養子酒之丞輝健は攝津守。松平伊賀守忠濟子幸之助忠英は左衛門佐。太田攝津守資順子祥之進資言は備後守。間部若狹守詮凞子直之助詮允は主膳正。松平壹岐守定剛子安次郎定之は若狹守。松平日向守直紹子權藏直益は兵部少輔。大番頭溝口辰藏直靜は攝津守。西城小姓組番頭松平式部忠寧は長門守。同城留守居曾根內匠長□は日向守。中奧小姓久世政之助は壹岐守。池田伊三郎長休は甲斐守。松平求馬助乘讓は內匠頭。堀田鐵之丞一知は伊勢守。井上修理正直は志摩守。石川直吉正保は大隅守。土屋彌學光直は河內守。土岐縫之助賴門は出羽守。小姓戸川雄三郎安清は大隅守。石谷直吉清香は淡路守。西城小姓本多岩五郎は志摩守。戸川一學は紀伊守。小納戸熊倉小野右衛門茂周は靱負佐と改む。紀伊中納言治寶卿請はるゝまゝに。その家司一人叙爵を免さる。竹田治部卿公欽。奧詰醫曲直瀨養安院は法印になり。西城奧醫人見高榮在信。太田元達惟能。小島活安は法眼に任ず。布衣の士に加はるもの四十五人。火消役青山喜右衛門幸發。岡部主稅美勝。西城目付松平孫大夫勘滿。使番青山牛大夫。夏目內膳爲穀。小姓組與頭夏目外記信行。西城小姓組與頭金田新八郎正秋。徒士頭長坂血鑓九郎信義。小十人頭角南內藏助國之。納戸頭柳澤八郎右衛門聽信。勘定吟味役松山惣右衛門直義。小納戸小幡次郎助直道。大久保兵九郎定恒。朝倉善太郎俊光。柴田藏人勝峯。宇田川平七定能。三枝隼人守長。水野要人忠一。島田玄蕃利長。曾根孫兵衛。小幡帶刀正直。藥師寺次郎左衛門元則。高井作左衛門忠鄕。天野三郎兵衛康哉。本目權兵衛。長田十之丞守安。飯室龜三郎昌春。佐野留五郎政備。小野久內由壽。鳥居仙之助。大岡八十一郎忠美。竹田直五郎。水野岩之丞。飯田大次郎。小田切鍋五郎直凞。太田善大夫好長。川口萬五郎。大久保三市郎。万年長十郎賴穩。西城小納戸村越只次郎成富。加々爪右京。細井佐次右衛門勝延。深見新八有能。押田幾三郎。井關富之助親經なり。奧詰醫澁江抽伯虬奧醫並となる。寄合水谷左門勝周火災巡視のこと命ぜられ。堀田式部定儀中田番を命ぜらる。日光山神橋改架の事勤めしともがら。大工頭牧定五郎はじめ賜物差あり。又さきに姫君降誕ありしが。御ひろめの御沙汰に及ばれざりしに。こたび御名進らせて晴姫君と稱し奉る。此日初雪により三家使して物獻り御起居を伺ふ。〇十七日紅葉山　御宮に青山下野守忠裕代參す。日光門主使して歲暮の御祝として二種一荷を進らせらる。此日歲抄の褒賞賜る者多し。〇十八日紅葉山　御宮　諸廟に御詣あり。日光門主近々御登山により。

晴姫生

奏者番小笠原貞溫西丸若年寄に任

高家戸田備後守氏倚御使して小袖。綿子。枝柿を贈らせらる。小納戸大澤忠次郎基期小姓組にかへさる。竹田藤左衛門小納戸の役御免しありて。歸番に准じ小普請に入らる。小姓組番頭戸田出羽守光弘。故組の番士大澤忠次郎基期は奥の務の所行なきにより。こたび御ゆるしありて歸番命ぜられしなり。かうやうのものを人撰ありしは。心行屆ざるにより御前を憚らしめらる。○十九日小普請千賀道有。高木玄濟正幸。增田宗榮番醫となる。此日久世大和守廣譽はじめ三人へ雁を下さる。又使番して雁を下さるゝ者二人。奥能あり。○二十日光門主御登山によりまうのぼられ。御對面ありて饗せらるべきを。門主少しく風の御心地によりてその事なし。又白木書院に出たまひ。南都寶藏院某が槍術を御覽あり。上直布衣以上のともがら見る事をゆるさる。寶藏院某は時服を賜ふ。田安邸用人格三賀監物長頼老免して寄合となり時服を下さる。この日小十人に准ぜし庭番馬場善吉西城廣敷用達となる。小普請より同城腰物方となるもの二人。○廿一日歳暮の賜物例のごとし。川渠浚利助役の事つとめし松平大隅守齊宣が家人等賜物あり。高家見習ふ宮原攝津守義周官料千俵下され本職の勤すべしと命ぜらる。この日再雪により三家使して物獻じ御けしき伺ふ。○廿二日奏者番小笠原近江守貞溫西城少老となる。この日初見したてまつるもの。寄合朽木主膳。鍋島雄之助。小姓中野播磨守子定之助。小姓組與頭小尾直三郎信一子專次郎。小納戸小笠原金十郎政宜子又五郎。高尾惣十郎信一子彌十郎。西城小納戸谷庄右衛門子邦三郎。寄合藤堂駒五郎良養子主馬。赤松式部範春子八兵衛範龜はじめその他尚多し。○廿三日清水邸勤番より同じ組頭となるもの二人。○廿四日東叡山　孝恭院殿靈廟に少老植村駿河守家長代參す。增上寺方丈茶に野老そへ。小石川傳通院蜜柑を獻じ。歳暮御祝としてまうのぼる。加藤遠江守泰濟。木下肥後守利德。明の春參向公卿の饗使を命ぜらる。この日西城後閤用達齋藤三大夫利雄具足奉行となる。寺社奉行吟吟物調役星野鐵三郎益庶多年精研なるを以て。勘定組頭に准じ十人口を下さる。鷹師を見習ふ山川清右衛門出精なればとて廩米を下さる。○廿五日旗奉行安藤大和守惟德子小姓彈正少弼惟久。徒士頭遠藤六郎右衛門易全子小姓壹岐守。西城旗奉行渡邊圖書頭貞綱嫡孫主計。寄合中西主水元武養子藤十郎元良。小普請組支配坂部山城守廣吉養子三十郎はじめ。父死して家つぐもの三十四人。けふも歳暮のたまもの例のごとし。高野遍照光院碩學を命ぜらる。○廿六日東叡山　至心院殿靈牌所に御側白須甲斐守政雍代參す。一橋邸家司飯田能登守易信は西城旗奉行となり。新番頭朝比奈河内守昌始は小普請組支配となり。中奥小姓土岐信濃守朝利は新番頭となり。小納戸佐野與八郎政數は二丸留守居となる。又小普請より小姓組に入るもの七人。書院番に入るもの七人。○廿七日臨時の朝會あり。水戸中將治紀卿相續を謝して。備前清光の刀。馬二匹。太刀。卷物。白銀をたてまつられ御對面あり。御手づから熨斗蚫を賜ふ。紀伊中納言治寶卿。松平播磨守頼說。松平大學頭頼愼。松平靱負佐頼敬謁見あり。つぎにおなじ家士もの

立花種周致仕蟄居を命ぜらる

まいらせて見えたてまつる。はて丶紀水兩卿を饗せらる。持弓頭堀三左衛門直從子源次郎直溫。おなじき久松忠次郎定安子榮三郎定國。西城徒士頭橋本喜八郎敬賢子猶五郎敬簡。一橋邸用人上野清五郎忠昌子七郎右衛門忠恕。御膳奉行各務傳之丞元確養子銀次郎元德は。父の勤勞および武技を賞せられ。一橋邸家司桑原遠江守盛倫子主計は卿の請はるゝにより。大目付井上美濃守利恭子助之進助忱。普請奉行小長谷和泉守政良養子新三郎政和。西城留守居堀田土佐守正貴養子式部正路。槍奉行竹本隼人正恒子直八郎。牧野大學成知子延之丞成美。淑姫君御用人大井庄三郎愚冨(マヽ)養子鎌次郎。留守居番細井豐前守正房子富之助正愛。小十人頭柘植左京亮英成子哲之助。日根九郎兵衛正嫣子午之助。小納戸瀧川久助一富子八之助。西城小納戸中野越前守子佐太郎。三枝中務少輔守貴子愼之丞。鷹匠頭內山七兵衛永恭子茂十郎。中奥番山本平六郎邑良子七十郎は父の勤勞により召出されて。おの丶〳〵兩番のうちに入る。裏門切手番の頭和田主稅惟英子八十吉は父の勤勞によりめし出されて大番に入り。代官野田松三郎政晟子友吉。西城廣敷御用達西森平五郎友多子八彌友章は父の勤勞その身の武技によりめし出されて小十人組に入る。西城奥右筆野本千右衛門虎純子文三郎。表右筆長谷川民之助壽有養子又三郎壽昌は父の勤勞によりめし出され表右筆に入り。表右筆荻原彥五郎當喜子悅之丞はおなじ事によりめし出され西城表右筆に入る。けふも歳抄褒賞あり。この日立花出雲守種周致仕し蟄居を命ぜらる。これはおもき御役をも蒙なが

大目付久田長考罪ありて職を免じ閉門を命ず

ら。卑賤のものに度々面會し。そのうへ奥向あるは重き事柄を表方のものに申傳へ。さま〳〵虛僞を申に至りしは。勤柄に不似合不埒を咎められてなり。其子順之助種善父の咎ありといへども。殊更に宥恕を以て封を襲しめられて御前をとゞめらる。また大目付久田縫殿頭長考御役召放されて小普請に入られ閉門せしめらる。こは市人を猥に出入致させ。又は重き事まで雜談におよび。立花出雲守種周と示談の事を心付もなく。あまさへ市人より取留ざる義を信用致し。彼是僻事多きにより。封書をもて尋問せられしに。不束の答書を捧げ。旁不埒の至りを咎められてなり。其子小姓孫太郎父の科により奥の勤を免され寄合に入らる。又西城書院番の頭秋元隼人正保朝市人の申聞しを。子細は存ぜずとも卒忽に承り。不容易義どもありしを心付もなく。あまさへ市人申に任せ。出雲守種周へ不束の封書を投しは不調法の事により。御役を免されて家に籠らしめらる。その他市人遠き島に流さるゝもの一人。〇廿八日月次の賀例のごとし。歳暮の御祝また同じ。水戸中將治紀卿御對面あり。宰相に任ぜらる。有馬中務大輔頼貴年齡をおぼしいで丶更に少將に任ぜらる。松平中務大輔義和少將に任ず。〇（本條當衍）廿九日松平肥後守容頌卒せしかば。その子金之助容住のもとに。松平和泉守乘完御使して香銀三十枚おくらせらる。〇この年六七兩月雨一滴も下らず。武江年表

文恭院殿御實紀卷四十

文化三年正月にはじまり六月に終る御年廿四

〔自正月至三月廿三日原本有闕脫〕

魯西亞船來着の際における處置を令す

文化三年丙寅年正月廿六日令せらるゝは。先におろしや船長崎へ來り。通商の事こひ申しけれど用ひられがたく。其旨を諭し。先に與へ置し信牌も取上。この後乘渡るまじと堅く申渡し歸帆せしめられしかば。再び來るまじけれど。此後もし漂流に事寄せ乘渡り。何くの浦方へも船繫ぐまじきにもあらず。さるとあらば速に其備をなし。人數を配り見分の者を出し。いよ〳〵おろしや船に相違なくば。よく〳〵諭告し穩に歸帆せんやうはからふべし。實に難風に逢ひ漂流して。食物薪水乏しくして歸帆なしがたきさま僞りなくば。その品々を與へて速に歸帆なさしむべし。いかにこひ申すとも上陸せしめず。番船出して人の見る事を禁じ。其旨速に建白すべし。いかに申諭すとも拒みて歸帆せず異儀に及ばゞ。建白に及ばず打拂ひて後に申出べし。かゝる事件に及びなば。すべて寛政三年に令せられし旨に准じはからふべしとなり。◎この月令せらるゝは唐物拔荷取締の事。去年の春令せられし中に。對州より廻す藥種類。唐物と紛らは敷品には。箱詰の上に朝鮮產と書記すべきむね載られしかど。嵩高の品は大坂まで積送に。莚包のまゝにて廻し。藥名斤數朝鮮產の旨は差札に書記すれば。船中にて改むるにその心してはからふべし。大坂にて賣捌のをり。すべて箱詰の上に朝鮮產の

唐物拔荷取締の制

白米問屋の制

よし書記すとなり。この旨公料私領領主地頭より。浦方村町へあまねく觸知らすべしとなり。◎二月六日市井に令せらるゝは。近村より出す白米引受る事は。問屋に限りたる事にて。問屋ならざるもの直荷引請るとは成がたき旨。天明元年令せられしに。近ごろ問屋の外素人にて。白米引請るものありと聞ゆ。いと僻事なり。且當時米價もいやしく。相場の障とも成れば。此後令せらるゝまでは。すべて白米にては江戸へ引請る事。素人はいふまでもなし。たとひ問屋たりとも一切なすまじ。もし背く者あらば白米取上。米主も嚴に沙汰せらるべければ。其旨心得て此後令せらるゝまでは。一切なすまじとなり。此事奧州筋より關八州の公料私領に觸らるゝとなり。◎三月廿四日東叡山　孝恭院殿靈廟に少老松平能登守乘保代參す。西城目付村越七郎左衛門正丈目付となり。使番渡邊善右衛門孝先手頭となる。○廿五日こたび學問試業あり。けふ其賞を行はる。小姓組番頭戸田出羽守光弘子十五郎は時服。寄合筑紫主水。小姓組鈴木直之丞正道。西城書院番三賀淸五郎長政。羽太孫太郎正定。大番江原馬之助親裕。川勝頼母廣永。勘定がた田中安之丞は卷物。また小普請世話取扱人見彌右衛門氏燭は時服。大番太田八十八嘉言養子友三郎孝胤は白銀十五枚。また小普請大河內彥四郎は卷物。西城書院番安藤監物養子左京。山岡銕次郎景周養子宇之助景慶。西城新番山本忠兵衛正邦養子權十郎。代官大原大藏信好養子富之助。小普請組支配世話取扱澁江新之助直彰子久太郎は白銀十枚。その以下の者多し。また大番與力植木彥右衛門養子八

三郎は白銀十枚。紅葉山火之番柴田市左衛門子斧七郎。大番與力片山重次郎。先手組與力眞里谷政五郎。中里三次。同じき小林勝藏子銕之助は白銀七枚を下さる。また箱館奉行支配調役大島榮次郎子九郎太郎は學問出精により。めし出されて勘定とせらる。けふ令せらるゝは。こたび江戸火災にて材木及び其外の諸色。市人等在方へ注文申遣すにより。追々元直段引上るよし聞ゆ。いと僻事なり。はやく引下げ。成べきほど下直に賣出すべし。もし謂なく高直になす者あらば曲事たるべしとなり。○廿六日小姓組與頭金森左兵衛可始老免して寄合となり時服を賜ふ。松平薩摩守齊宣球琉人めし連れ參府に近かりしに。こたびの大火にて居邸三所燒失せしにより。殊更難義にぉぼしめされて金壹萬兩の恩貸あり。○廿七日交代寄合平野中務子德三郎。寄合淺井肥後守忠郷孫道之丞。山本豐前守正虎子喜平次はじめ。父致仕して子家つぐもの十八人。大番鎮目牧太惟成老免して小普請に入り褒金を賜ふ。代官寺西重次郎封元支配所村々殊更に心屆しをもて時服金を下さる。○廿九日火消役一柳獻吉直郷。小濱長五郎壽隆。安藤内藏助廣榮。戸田内膳氏澄。堀田幸之助一權。大久保玄蕃忠陽。土井右門利豐。青山喜右衛門幸發。岡部主税美勝。岡田將監善明去りし四日の火災の事によておのおの時服を下さる。また町奉行小田切土佐守直年。根岸肥前守鎮衛子徒頭九郎兵衛衛肅同じとき消防指揮よろしきにより褒詞を蒙りしとぞ。◎四月朔日月次の賀例の如し。中川修理大夫久貴就封のいとま下さる。本多豐後守助受養子彦三郎助賢初見したてまつる。有馬中務大輔頼貴は去月四日の火災のをり。速に三緣山にまかり特更消防の指揮し。松平官兵衛。松平越前守治好。松平大和守直恒。松平相模守齊邦。松平出羽守齊恒。小笠原伊豫守忠固。酒井左衛門尉忠器は速に消防人數出し。松平左兵衛督直周は同じく人數召連消防指揮行屆しを褒賞せらる。○二日小姓組番頭柴田丹波守勝房して水戸宰相の方を。　兩御所より吊慰せらる。これは今出川故内府瑤林院去月廿三日逝去のよし。父方叔母なればなり。○三日作事奉行三上因幡守季寛養子西城小納戸吉郎季富。西城徒士頭橋本喜八郎敬賢子猶五郎敬簡始め。父死して家つぐ者四人。百人組の頭大久保志摩守忠通は甲府勤番支配となり。中奥小姓小堀下總守政共は百人組の頭となり。先手頭小林彌兵衛正秘は山田奉行となり。使番溝口孫左衛門勝貞は先手弓頭となり。小姓組與頭朽木五郎左衛門德綱は先手筒頭となり。小納戸石野三右衛門廣貞は淑姫君の用人となり。淑姫君用人大井庄三郎昌隆は小納戸頭取に准ぜらる。此日未の牌下谷車坂火あり。續王代一覽　○五日水戸宰相治紀卿の制中を問せられて。書院番頭森川下總守俊世御使して。氷糖一壺を贈らせらる。○六日中野のほとりへ放鷹として成らせられべく仰出されしが。雨により延らる。○七日日光門主御登山により。高家今川丹後守義彰御使して袷衣贈くらせらる。番醫小柴池菴爲盛は門主御登山により。添てまいらるべく由命ぜらる。この日肥前國小城領主鍋島紀伊守直知乞置。そがうへ宗家肥前守齊直よりも願ひしにより。子捨若直堯に遺領七萬三千二百五十石餘をつがしめらる。此直知は故加賀守直愈が

子にして。

○八日東叡山　浚明院殿靈廟に牧野備前守忠精代參す。○九日藤堂和泉守高兌。佐竹右京大夫義和は居亭回祿によて驛次をもてとはせられ。かつ參覲の期を延せらるるにより。おの〳〵使して箱肴を獻じ謝したてまつる。○十日高家大澤右京大夫基之は日光山　御宮代參使。　大納言殿御使を兼ね命ぜられ。松平主膳正近義はおなじ山　靈廟に代參使。柳澤伊勢守光祓。田沼玄蕃頭意正は祭祀の奉行命ぜられ。規の如く賜物有て共にいとま下さる。日光門主御登山によりまうのぼられ例のまゝに饗せられ。御座所にして御對面あり。○十一日西城書院番頭山口和泉守直良病免して寄合となる。○十二日三緣山　惇信院殿靈廟に土井大炊頭利厚代參す。徒士頭服部久右衛門貞勝は西城目付となり。小姓組川口源右衛門長都。向井六左衛門正數は共に同じ與頭となり。書院番小笠原重左衛門貞三は徒士頭となり。二條城門番之頭本多橘五郎利信は西城裏門番の頭となる。○十五日黑木書院に出給ふ。上杉彈正大弼治廣。伊達遠江守村壽。松平安藝守齊賢。松平上總介齊政。丹羽加賀守長祥はじめ參覲のもの十六人。○十六日　水戸宰相治紀卿御喪闋によてまうのぼられ。吊慰の御使かつ拜領物。及び西城よりの懇詞をも謝し奉らる。○十七日紅葉山　御宮に　兩御所御詣あり。○十八日大番荒川數馬老免して小普請に入り褒金を賜ふ。勘定坂井十之助坂城金奉行とせらる。○十九日水戸宰相のかた請はるゝまゝに。息女鄰姫のかたを鷹司關白政凞公嫡子大納言政通卿に婚嫁の事仰出さる。よて家司めして傳へらる。この日新番佐原善五郎義行遺恨有のよしにて。途中にして書院番竹尾三次郎元敎へ切りかけ。元敎あへなく息絕ぬ。よて義行鞫問せられしうちに死すといへども。命ながらへなば死刑に處せられ。善五郎義行養子萬年某は父の科により遠流に處せらるべきを。幼稚なるをもて親戚に預らる。三次郎元敎は家たへしとぞ。其他連座のもの多し。○二十日東叡山　大猷院殿。　心觀院殿靈牌所御詣の事御口痛によて御參なし。牧野備前守忠精代參す。この日小普請諸星萬之助弟善之丞斬に處せらる。連及のもの多し。○廿一日宿老戸田釆女正氏敎病により職とかん事を請ひ申すにより。土井中務少輔利義めして。心永く保養すべしと傳へらる。この日奧にて散樂の御遊あり。○廿三日臨時の朝會あり。黑木書院に出給ひ。松平越前守治好。細川越中守齊茲。松平大和守直恒。松平大膳大夫齊房。松平相模守齊邦。立花左近將監鑑壽はじめ。就封のいとまたまはるもの廿四人。越前守治好はじめ。左近將監鑑壽まで御馬を下さる。木下肥後守利德。一柳土佐守末昭はじめてなり。秋月山城守種德。鍋島甲斐守直溫。松平日向守直紹參覲す。松平主水家つぎしを謝して。馬一疋卷物黃金を獻じて見えたてまつる。その家士も拜謁す。この日寅の牌地震す。○廿四日東叡山　孝恭院殿靈廟に少老京極備中守高久代參す。高家大澤右京大夫基之。および松平主膳正近義。祭祀の奉行柳澤伊勢守光祓。田沼玄蕃頭意正日光山よりかへり謁す。西城小姓組番頭渡邊山城守久おな

老中戸田氏敎卒

じ書院番頭となる。○廿五日水戸宰相治紀卿息女婚嫁の仰出されを謝して。使して二種一荷をたてまつらる。宿老戸田采女正氏敎が病を問せられて。小納戸大井庄三郎昌隆して味噌漬の鯛一曲をおくらせらる。○廿六日白木書院に出たまひ。謁見以上。諸職人。番士。小普請のともがら武技御覽あり。おの〳〵布帛二端を下さる。美濃國大垣の城主宿老從四位下侍從戸田采女正氏敎昨夜亥の刻ばかりに身まかりぬ。子伊賀守氏庸に十萬石をつがしめらる。この氏敎は故采女正氏英が子にして。幼名榮之進。明和五年六月十三日襲封。同じ年の七月朔日家繼しを謝せし目見え奉り。そのとしの十二月十八日從五位下に叙し。兼采女正と改稱し。寛政元年の六月十八日奏者の事奉はり。同じ年の十一月廿四日寺社の奉行を兼しめられ。同じ二年四月十六日御側用人命ぜられ。同じ年十一月十六日加判の列に加へられ四位に叙し。おなじ年の十二月十五日侍從に任ぜられ。同じ十一年十月朔日國用の事司り。同じ十年正月廿八日所司代引渡として京への御暇御懇の御詞蒙り。御手自御羽折賜り。文化三年四月廿六日五十三歳にして終をよくす。○廿七日戸田采女正氏敎卒せしかば。雁間詰。菊間縁頰詰。諸番頭。諸物頭。諸役人まうのぼり御けしきうかゞふ。采女正氏敎子伊賀守氏庸のもとに。少老植村駿河守家長御使して香銀三十枚をつかはさる。大番頭細川長門守興德病免す。○廿八日月次の賀例のごとし。相良志摩守賴德參覲す。交替寄合山名中務養子主殿はじめ見えたてまつる。この日水戸宰相には息女婚嫁の仰せ出されを謝してま

寺社奉行堀田正穀免

奏者番阿部正精寺社奉行を兼任す

うのぼらる。○廿九日牧野備前守忠精朝鮮來聘のこと奉はるべしと奥にして命ぜらる。○晦日三緣山　有章院殿靈廟に御詣あり。◎この月奥州筋深山にて。通用錢を隱し吹なすものあるよし聞ゆ。いと僻事なれば査檢して咎めらるべき旨觸らる。◎五月朔日月次の賀例のごとし。日光門主は端午の御祝として。使して二種一荷をまいらせらる。松平左兵衛佐直周はじめ。就封の暇賜はるもの四人。左兵衛佐直周は御馬を下され。井伊掃部頭直中。松平越中守定信は御鷹馬を下さる。佐渡奉行土屋長三郎正備初て赴任のいとま下され。金子時のふく羽折そへ賜ふ。米良主膳參謁す。○二日端午の御祝として。三家のかた〴〵はじめ萬石以上のともがら使して時服をたてまつる。　大納言殿へもおなじ。奏者番兼寺社奉行堀田豐前守正穀病により請ふまゝに寺社の兼役をゆるさる。○三日父死して家つぐ御家人六人。○五日蒲節の佳賀規の如し。○六日那須衆二人いとま下さる。奏者番阿部主計頭正精寺社の奉行兼しめらる。○七日諸番士より西城新番にうつるもの六人。公卿館伴の事にあづかりし勘定代官等賜物あり。○八日東叡山　大猷院殿。　嚴有院殿靈廟。　心觀院殿靈牌所に御詣あり。同じ山の　浚明院殿靈廟には青山下野守忠裕代參す。○十日東叡山常憲院殿靈廟に土井大炊頭利厚代參す。小普請組支配富田中務知良西城小姓組番頭となる。○十一日米良主膳いとま下さる。○十二日三緣山　惇信院殿靈廟に青山下野守忠裕代參す。○十四日三緣山　文昭院殿靈廟に土井大炊頭利厚代參す。○十五

日月次の賀例の如し。松平甲斐守保光はじめ。就封のいとまたまはるもの六人。甲斐守保光御馬を下さる。小笠原佐渡守長堯子津八郎初見したてまつる。小姓組番頭室賀壹岐守正賴は紀伊國へ御使命ぜられ。金十枚賜はりいとま下さる。また長崎奉行曲淵和泉守景露。京町奉行牧野靱負成傑。奈良奉行鈴木新吉正義。駿府町奉行戸川大學達旨おの〳〵初て赴任のいとま下され。賜はり物は差あり。靱負成傑。新吉正義は叙爵して。靱負は大和守。新吉は相模守とあらたむ。大番頭菅沼伊賀守定候。竹中遠江守重寛二條城在番はてゝ歸り。與頭番士等まで同じくして謁見す。けさ水戸宰相治紀卿のもとに書院番頭石河壹岐守貞通。尾張中將のもとに小姓組番頭小笠原若狹守成信御使して。おの〳〵巣鷹を贈らせらる。よて宰相治紀卿には直に謝せられ。中將には使して謝したてまつらる。○十七日紅葉山　御宮並　諸廟に御詣あり。○十八日小石川傳通院智嚴京知恩院の住職たらしむ。此日奥にて申樂催さる。○二十日東叡山大猷院殿。　有德院殿靈廟に青山下野守忠裕代參す。先手頭大森彌左衛門親中火賊捕盜の事免さる。那須衆一人いとま下さる。小普請より大番に入るもの十一人。○廿一日吹上花圃にして騎射御覽あらせらる。○廿二日尾張中將使して巣鶴をたてまらつる。○廿三日天守番の頭境野六左衛門英昇右衛門督方の用人となる。○廿四日三緣山　台德院殿靈廟に土井大炊頭利厚代參し。東叡山　孝恭院殿靈廟に少老堀田攝津守正敦代參す。日光門主御歸寺ありしによて。高家宮原長門守義潔御使して慰

松平信明老中に再任し首座を命ぜらる

立花種善筑後三池より陸奥下手渡に轉封す

勞せらる。新番頭岩本石見守正倫小普請組支配となる。○廿五日けさ水戸宰相治紀卿のもとに青山下野守忠裕御使し。松平伊豆守信明加判の列の上班を命ぜらるゝ旨を仰つかはさる。よてその事布衣以上のともがらへ。宿老列座して牧野備前守忠精して傳ふ。また尾張中將は御幼稚をもて家司めして備前守忠精傳ふ。日光門主御歸寺により使して岩茸一匣をまいらす。○廿六日光門主御歸寺により。まうのぼられ御坐所にして御對面せらる。○廿八日本月の御祈禱料を。高家大澤下野守基季して日門につかはさる。吹上にして草鹿御覽あり。○廿九日三緣山　有章院殿靈廟に青山下野守忠裕代參す。持弓頭堀三左衛門直□は新番頭となり。小姓神尾豐後守守富は持筒頭となる。又二條鐵砲奉行宅間善右衛門林奉行とせらる。◎この月八日頃より十一日まで江戸及び近國大南風あり。◎六月朔日月次の賀例のごとし。大番頭巨勢日向守利和組替命ぜらる。田沼玄蕃頭意正は大番頭となり。寄合指揮せし近藤登助壽用は小普請組支配となる。京知恩院某。同天龍寺銀長老。鎌倉圓覺寺鐵西堂住職等は出世公帖賜はりしを謝し束卷を獻ず。○三日田安邸用人海野左門子書院番左近はじめ。父死して家つぐもの九人。○五日土用に入りしかば。三家のかた〳〵使し。溜詰。高家。詰衆。奏者番まうのぼりて御けしきうかゞふ。立花順之助種善が領地筑後國三池より。陸奥國伊達郡下手渡の地に轉ぜらる。○六日日光門主增上寺方丈暑中御けしき伺はれて。おの〳〵使してものたてまつられ。門主にはまた使して新蓮根をまいらせらる。小普請よ

り大番に入るもの一人。○七日尾張中將使して巢雀鷂たてまつらる。○八日東叡山
浚明院殿靈廟に松平伊豆守信明代參し。おなじき淩雲院にて高尙院殿田安大藏卿治察卿。の三
十三回忌取越法會により。御側高井飛驒守清寅代參して香銀十枚を備へらる。同じ事
によて三家のかた〴〵使して御けしきうかゞはる。大番頭菅沼伊賀守定候西城御側
となり左京亮と改稱す。○九日東叡山　淨圓院殿靈牌所に牧野備前守忠精代參す。
大目付中川飛驒守忠英養子勘三郎忠宣。山田奉行小林彌兵衛正秘養子猪三郎。持弓頭
筧傳五郎孝忠子勇吉孝寛。先手頭德永小膳昌常子權之助。大林彌左衛門親中子茂助親
民。西城先手森與五左衛門盛九子多宮盛壽。使番林友之丞直英養子鍬之助。戸田主稅
之助養子織部。書院番與頭高木左京正雄子京三郎。糟屋八藏正長養子內藏助正親。小
姓組與頭蜂屋勝五郎正登子喜三郎正愛。西城裏門番之頭甲斐庄武助正方子長三郎正
邦。小納戸山角市左衛門養子藤五郎。船手頭金田傳左衛門正喜子德太郎。一橋邸用人
增井惣八郎子與一郎は武技出精。先手頭長田六左衛門繁昌養子求馬繁茂。小納戸野々
山彌十郎子淸藏は學問武技出精。二丸留守居小出大助照方子伊之助寛如は學問出精
により。めし出されて兩番のうちに入り。小普請組支配組頭須田久米次郎養子吟次
郎。西城廣敷番之頭谷左中養子藏之丞。鐵砲玉藥奉行加藤久五郎養子五郎吉は武技出
精。具足奉行福島傳兵衛養子傳五郎は軍學武技出精。富士見寶藏番の頭間宮三郎右衛
門子彥兵衛は父の勤勞により。めし出されておの〴〵大番のうちに入り。代官木村周

浦賀奉行酒井忠賴免

藏子喜大夫。堀谷久右衛門養子千三郎は武技出精により。めし出されて小十人に入
る。○十一日寄合火災巡視奉はりし横山兵庫助同じ肝煎となる。○十二日三緣山
惇信院殿靈廟御詣氣相によりて延べらる。土井大炊頭利厚代參す。○十三日暑中を問
せられて。東叡三緣兩山に御使して檜重を贈らせらる。○十四日西城書院番頭太田志
摩守資同は大番頭となり。小姓組番頭戸田出羽守光弘は西城書院番頭となる。○十五
日祭祀により山王の祠へ御側林肥後守忠勝代參して黃金一枚進薦あり。又徒頭をし
て神輿を護送せしめらる。○十六日嘉定の御祝規の如し。○十七日紅葉山　御宮に
牧野備前守忠精代參す。浦賀奉行酒井近江守忠賴病免す。西城納戸より同じ徒頭とな
る者一人。大番より一人。小普請より二人西城納戸に入番す。○十八日不時朝會あり。
戸田越前守忠翰はじめ參覲のもの十六人。瓜連常福寺在心は小石川傳通院へ。瀧山大
善寺威海は瓜連常福寺へ。增上寺伴頭了翼は瀧山大善寺へ共に住職せしめらる。○二
十日東叡山　有德院殿靈廟御詣の事痢疾氣によてなし。牧野備前守忠精代參す。○
廿一日寄合甲斐庄庄五郎正憲火災巡視を命ぜらる。○廿三日臨時朝會あり。松平主殿
頭忠馮參覲す。小笠原伊豫守忠德はじめ。就封の暇たまはる者十八人。伊豫守忠德。酒
井左衛門尉忠器。本多中務大輔忠顯御馬を下さる。阿部攝津守信亨子安三郎信操初見
す。紀伊中納言治寶卿御使ありしを謝して。使して二種一荷をまいらせらる。小姓組
番頭室賀壹岐守正賴紀伊國よりかへり謁す。甲府勤番支配大久保志摩守忠道。駿府城

番彦坂九兵衛忠篤。山田奉行小林彌兵衛正秘初て赴任のいとま下され。彌兵衛正秘は叙爵して筑後守と改む。小普請組支配柴田七九郎康福は小姓組番頭となる。○廿四日東叡山　孝恭院殿靈廟に少老植村駿河守家長代參す。土用明けしかは三家のかたがた使して御けしきうかゞはる。○廿五日端午に時服たてまつりし三家のかたがたはじめ。萬石以上のともがら御内書を賜ひ。　大納言殿より奉書をわたさる。大番富永八五郎。中澤主税助その與頭とせらる。東叡山住心院權僧正尚詮凌雲院住職とせらる。◎この月十二十三兩日江府及び近國大雨。

文恭院殿御實紀卷四十一

文化三年七月にはじまり十二月に終る

◎七月朔日月次の賀例のごとし。戸田采女正氏庸家つぎしを謝して見えたてまつる。その家士等も拜謁す。佐竹右京大夫義和參覲す。松平山城守信立。土井伊豫守利謙。大關美作守增陽。内藤播磨守政璟坂城加番にさゝれ暇下され。松平和泉守乘寛はじめ。就封の暇賜はるもの二人。小石川傳通院。東叡山凌雲院。瓜連常福寺。瀧山大善守物獻じ住職を謝し奉る。大番頭丹羽式部少輔氏昭。田沼玄蕃頭意正坂城在番の暇給ふ。與頭番士も同じ。佐渡奉行飯塚伊兵衛政長參謁す。此日日光奉行仙石大和守久功は小姓組番頭となり。納城目付馬場大助利意は日光奉行となり。火消役一柳獻吉直郷は浦賀奉行に任ず（一柳直郷浦賀奉行に任ず）

長崎奉行成瀨正定卒

奉行となり。百人組の頭戸田大學忠從は小普請組支配となり。大番與頭三枝甚四郎頼一は二丸留守居となる。○三日長崎奉行成瀨因幡守正定子小太郎はじめ。父死して家つぐもの八人。○四日大川筋獵を視給ひ。夫より濱の庭園に成らせらる。七夕の御祝として日光門主使して二種一荷をまいらせらる。○六日七夕の御祝として。三家のかたがたはじめ。例のともがらより鯖料をたてまつる。納戸頭長崎源之助元良さりし四日。松平肥前守齊直國許到着により。謝儀の家士下されもの員數相違の不調法を咎められて謁見を止めらる。○八日東叡山　浚明院殿靈廟に青山下野守忠裕代參す。大坂破損奉行大久保彦大夫子金藏武技出精によりめし出されて大番に入る。西城鎗奉行高力平八郎直道は御前をとゞめらる。これは從弟達河田鐵藏さきに家出致し。のちに町奉行村上肥後守義禮より急度押込置べきよし申渡御咎め蒙りし上は。殊更に厚く手當致し置べきに。ふたゝび家出いたしたる不調法を咎められしとぞ。○十一日日光奉行三橋飛驒守成方赴任のいとま下さる。大番佐山左門正邦その與頭とせらる。○十二日三緣山　惇信院殿靈廟に土井大炊頭利厚代參す。本所深川火災巡察奉はりし寄合神保右近茂和火消役となり。新番與頭本多嘉平次光貞小十人頭となる。○十四日紅葉山　諸廟に御詣あり。東叡山　至心院殿靈牌所に御側平岡美濃守頼長代參す。○十五日盂蘭盆會により。東叡三緣兩山に施物を贈らせらるゝ事例のごとし。この日　大納言殿には濱園にならせ給ふ御あらましなりしが。殘の暑強かりしを

高姫卒

本多助受致仕

もて。延滯の旨を本城より仰下されしとぞ。○十七日紅葉山　御宮に青山下野守忠裕代參す。○十八日新番太田八十郎正幸同じ與頭となさる。○十九日寄合伊東主膳本所深川火災巡視の事命ぜらる。又西城切手門番の頭松平加賀右衛門二條門番の頭命ぜらる。○廿日勘定平岩右膳二條鐵砲奉行とせられ。同城御殿預兼しめらる。○廿一日水邸より初鮭を獻ぜらる。○廿二日水戸宰相のもとに御使して雲雀を贈らせらる。○廿三日大坂定番松平日向守直紹病免す。此日尾張羽林のもとに御使して雲雀を賜はる。又同じ品下さるゝ大名十八人。○廿四日高姫君此ほどわづらはせたまひしが。よべ戌刻ばかりにかくれさせたまひぬ。こはこのとし三月降誕まし〳〵し姫君なりとぞ。よて　孝恭院殿靈廟に代參立られず。○廿六日青山下野守忠裕此秋九月東叡山より致仕す。所領二萬石は其養子彥三郎助賢につがしむ。此助受は故豐後守助盈が嫡孫。實は若狹守助之の長子なり。幼名左門又彥三郎といふ。助之世を早うしければ助盈が嗣子となり。安永三年三月廿九日遺領を賜はり。同じ四年の十一月十五日彥三郎と改稱し。同じ九年の五月朔日見え奉り。天明二年十二月十九日叙爵し豐後守と改め。同じ五年坂城の加番命ぜられ。文政八年六月十六日六十二歲にして終りしなり。寄合近藤淡路守養子左京。山口和泉守子勝之助。大久保主膳子勝五郎。本多兵庫子又三郎。常見三右衛門子富五郎。金森左兵衛子書院番甚四郎始め。父致仕して子家つぐ者二十

阿部信亨致仕

人。左兵衛は養老料三百苞を下さる。○廿七日高姫御事圓琮院殿と謚しまいらせ。けふ未刻に東叡山凌雲院に御送葬あり。弓矢鎗奉行齋藤五大夫天守番の頭となり。貞章院尼の用達阿部彌大夫弓矢鎗奉行となる。○廿八日月次の賀例のごとし。松平淡路守參覲す。松平大隅守宗允就封のいとま下さる。使番戸田主税助。小姓組片桐長兵衛大坂目付にさゝれていとま下さる。長兵衛子正藏初見したてまつる。◎八月朔日當賀例のごとし。○二日寺社奉行大久保安藝守忠眞。勘定奉行柳生主膳正久通。　浚明院殿御法會のこと命ぜられ。稻垣信濃守長續はおなじ警衛命ぜらる。○三日西城御側杉浦丹波守正勝子中奥小姓若狹守はじめ。父死して家つぐもの十人。○四日大坂船手頭石川靱負總武百人組の頭となり。中奥番三宅市右衛門康哉西城目付となる。また小納戸諏訪庄兵衛。高井作左衛門。川口萬五郎はともに小姓となる。○五日武藏國岡部領主阿部攝津守信亨病により致仕す。所領二萬五十石餘はその子安五郎信操につがしむ。この

使番井上越中守病免して寄合となる。○七日小十人北條源五右衛門老免して。小普請となり褒金下さる。○八日東叡山　浚明院殿靈廟に青山下野守忠裕代參す。○九日濱の庭園に成らせらる。○十日一橋邸徒頭土橋市藏西城切手番の頭命ぜらる。○十一日小納戸小宮山利助西城にうつる。○十二日三緣山　惇信院殿靈廟に松平伊豆守信明代參す。釋奠によて聖廟に御側平岡美濃守頼長御使して。太刀黃金一枚進薦あ

遠山景晋、村垣定行蝦夷より歸謁す

寺社奉行脇坂安董西本願寺宗意惑亂の事裁決せるを以て褒詞を加へらる

り。作事奉行平賀式部少輔貞愛大坂町奉行となる。座班はこれまでのごとくたるべしとなり。小普請奉行蜂屋美濃守成定作事奉行となり。大坂町奉行水野若狹守忠通小普請奉行となる。○十四日信州松本全久院天龍深川靈運院の住職とせらる。○十五日月次の賀例のごとし。松平下總守忠翼はじめ參覲のもの十人。堀田相模守正時はじめ。就封のいとまたまはるもの十八人。目付遠山金四郎景晋。勘定吟味役村垣左大夫定行は松前蝦夷地の事はてゝかへり謁す。使番雨宮權左衛門正宴は駿府目付にさゝれいとま下さる。賜物舊のごとし。東叡山學頭凌雲院僧正僧正を謝し奉る。○十六日富田大中寺惠源越前永平寺住職命ぜらる。○十七日紅葉山　御宮に靑山下野守忠裕代參す。○十八日淺草のほとりへ　兩御所成らせらる。○二十日東叡山　心觀院殿靈牌所に靑山下野守忠裕代參す。この日　大納言殿には御輦にて初て紅葉山　諸廟所御詣あり。○廿一日所司代稻葉丹後守正誠任所にありて病により。番醫山田立長をつかはさる。心用ひ療養すべしと親族阿部主計頭正精めしてつたへられ。また丹後守正誠子長門守正備請ふまゝに看侍の暇下さる。脇坂中務大輔安董西本願寺宗意惑亂のこと裁許せしによて褒詞を加へらる。屬吏へも銀下さる。○廿四日東叡山　孝恭院殿靈廟に少老松平能登守乘保代參す。○廿七日番街藥圃に成らせられ。それより尾邸御守殿に立寄らせらる。○廿八日きのふ御守殿に過らせたまひしかば。尾張中將使まいらせ謝し申さる。この日　大納言殿には深川のほとりへ成らせらる。○廿九

藤堂高嶷卒

日日光門主近々御登山により。高家大友因幡守義方御使して梨子一籠をおくらせらる。◎九月朔日月次の賀例のごとし。板倉內膳正勝長。酒井大學頭忠禮。土方大和守義苗。永井信濃守直方。大坂加番はてゝかへり謁す。石川近江守總親參覲す。新庄越前守直計。寄合牧野半右衛門。津輕三十郎親□駿府城加番命ぜられいとま下さる。目付土屋帶刀直廉。勘定吟味役松山惣右衛門直義對馬國撿視の事はてゝかへり謁す。箱館奉行戸川筑前守安倫任所よりかへり謁見す。深川靈雲院住職。知恩院使僧して入院。品川東海寺輪番を共に謝し奉る。○二日重陽の御祝として。三家のかたゞ〳〵はじめ。萬石以上のともがら使して時服を獻る。　大納言殿へも同じ。日光門主近々御登山によりまうのぼり。御對面ありて饗膳を賜ふ。○三日靑山下野守忠裕。寺社奉行大久保安藝守忠眞。勘定奉行柳生主膳正久通。東叡山　浚明院殿御法會によてかしこに赴くをもて謁見す。藤堂和泉守高嶷卒せしかば。其子左近將監高兌のもとに。奏者番市橋下總守長昭御使して香資の銀卅錠を贈らせらる。京所司代稻葉丹後守正誠任所にて病に犯されしによてつかはされし番醫山田立長かへり來りしかば。白銀三十枚をさづけらる。○四日東叡山にて　浚明院殿二十一御回忌御法會初日により。千部御經開闢導師日門つかふまつらるゝによて。松平伊豆守信明代參す。おなじ事により三家のかたゞ〳〵使まいらせ。高家。詰衆。奏者番まうのぼり御けしきうかゞふ。この日重陽の御祝として。日光門主使して二種一荷をまいらす。○五日御法會きのふに同

じ。少老堀田攝津守正敦御使して。日光門主に檜重をおくらせられ。總督はじめ其他ありあふ輩へも懇詞を下さる。同じ事によて三家のかたゞ〳〵。及び松平加賀守齊廣使して檜重をまいらす。又御法會中なれば。例の家々よりたてまつりし菓子を。布衣以上其他のともがらにわかち下され。かつ徒士以上のものへもおなじく下さる。○六日御法會日なみの如し。けふ結願により　靈廟に土井大炊頭利厚代參す。おなじ事により御側白須甲斐守政雍御使して。日光門主に氷糖一匣をおくらせらる。又三家のかたがた使まいらせ。高家。詰衆。奏者番まうのぼり御けしきうかゞふ。松平左京大夫頼啓祖父致仕宮内大輔頼謙病により。奏者番松平右近將監武厚御使して尋問せらる。大番門奈助左衛門心狂ひしによて致仕し。弟金十郎をして家つがしめらる。○七日知恩院方丈使僧いとま下され賜物あり。○八日東叡山　浚明院殿靈廟に御詣あり。同じ山の　嚴有院殿靈廟には牧野備前守忠精代參す。また御法會濟ませられしによて。青山下野守忠裕御使して。施物として日光門主に時服白銀をつかはされ。かつ僧中へもおなじく時服銀子を下さる。○九日菊節の佳賀例のごとし。○十日東叡山　常憲院殿靈廟に土井大炊頭利厚代參す。高家宮原攝津守義周は日光山　御宮代參使。小笠原信濃守長禎は祭祀の奉行命ぜられいとま下さる。賜物例のまゝなり。また東叡山御法會濟ませられしによて。日光門主使して菓子一匣。生花一桶を進らせらる。同じ事によて三家のかたゞ〳〵はじめ。群臣皆まうのぼる。又御法會總督なれば青山下野守

忠裕時服を賜ふ。松平左京大夫頼啓祖父致仕宮内大輔頼謙卒せしかば。奏者番市橋下總守長昭して香銀三十枚を贈らせらる。○十一日王子のほとりへ放鷹として　兩御所成らせらる。御拳は鶉十二羽とぞ。また安藤對馬守信成。井伊兵部少輔直朗したがひ奉りて鷹かし賜はりて各鶉狩得らる。小姓組番頭柴田丹波守勝房嫡孫岩五郎。小十人頭筒井權左衛門順亨養子善三郎。小納戸内藤甚三郎養子内記はじめ。父死して家つぐもの九人。こたび御法會により赦おこなはるゝによて。故書院番竹尾三次郎子八十太郎めし出されて。祿百苞を賜はり小普請に入れらる。○十二日三緣山　惇信院殿靈廟に牧野備前守忠精代參す。○十三日寺社奉行大久保安藝守忠眞。勘定奉行柳生主膳正久通こたび御法會の事つとめしによて時服を賜ひ。奥表右筆の輩白銀を下さる。○十四日三緣山　文昭院殿靈廟に松平伊豆守信明代參し。　清揚院殿靈廟に奏者番諏訪因幡守忠肅代參す。○十五日月次の賀例のごとし。松平左七郎乘羨初見したてまつる。浦賀奉行一柳獻吉直鄕赴任のいとま下さる。こたび御法會によて納經代物に下りし有栖川。閑院。伏見。近衛。青蓮院家の使者見えたてまつる。又越前永平寺。和州寶生院は住職。高野學侶方藏王院。蓮花定院は在番代。大峯歸當山二宿は共に謝（殿字脱）し奉る。○十七日紅葉山　御宮及　諸廟に御詣あり。○十八日水尾の方々使して物そへて口切茶をまいらす。使番林友之丞病免して寄合となる。○十九日有栖川。閑院。伏見。近衛。青蓮院家の使者。賜物ありていとま下さる。○二十日東叡山　大猷

醸酒の制

院殿。　有德院殿靈廟に土井大炊頭利厚代參す。高家宮原攝津守義周。祭祀奉行小笠原信濃守長禎日光山よりかへり謁す。太田攝津守資順奏者番となり。納戸長崎源之助良元西城廣敷用人となる。表右筆青木鄕助。三宅內藏助奥右筆見習ふべしと命ぜらる。○廿二日臨時の朝會あり。稻葉伊豫守雍通參覲す。板倉內膳正勝長就封の暇下さる。先手頭高木又兵衛資賢養子善之助。小姓組與頭向井六左衛門正數子岸之丞はじめ初見したてまつる。其他のもの四人。けふ令せられしは。近年米價いやしく。世上おしなべて艱苦する由聞ゆ。かく米粒　多き折からなれば。諸國の釀酒はいふまでもなし。休株のもの。及び是まで生業とせざるものまでも釀酒心のまゝたるべし。酒造高も是までの定員にかゝはらず。心入て造り出すべし。此旨公料私領寺社領へあまねく觸知すべしとなり。○廿三日濱の庭園に成らせらる。御物數若干なり。○廿四日三緣山　台德院殿靈廟に牧野備前守忠精代參す。東叡山　孝恭院殿靈廟に少老井伊兵部少輔直朗代參す。日光門主御歸寺により高家戸田備後守氏倚御使して慰勞せらる。○廿五日吹上の庭園に　兩御所成らせられ。それより神田橋邸へ立寄らせらる。峯姫君にも同じく入らせらる。日光門主御歸寺により使して薯蕷一匣をまいらす。去りし御成のをり鳥射し番士三人時服をたまふ。○廿七日吹上にして園物御覽あり。○廿八日吹上の庭園に成らせられ。それより田安邸へ御立寄あり。芝泉岳寺海禪富田大中寺の住職となる。此日日門へ本月御祈禱の料をつかはさる。御使は高家大澤右京大夫基之なり。○廿九日三緣山　有章院殿靈廟に松平伊豆守信明代參す。大番頭本庄近江守道昌大坂城定番となる。○十月朔日月次の賀例のごとし。奥平大膳大夫昌高はじめ參覲のもの二人。本多彦三郎助賢。米津勘兵衛政懿。一柳兵庫頼親。酒井靱負佐養子與七郎初見したてまつる。京黑谷金戒光明寺東卷を獻じ住職を謝す。○二日奥右筆長谷川彌左衛門子隆之助手跡達者學問出精により。めし出されて表右筆となり。寄合醫渡邊□軒は西城奥醫となり。番外科關本伯典は奥醫となる。○三日小姓組松平傳藏子市五郎。土岐十左衛門子內記。西城小姓組杉田金之丞子政之丞。雨宮新五郎子三次郎。書院番阿倍長右衛門子兵左衛門。西城書院番阿部甚三郎嫡孫伊三郎。窪田左近子釜之丞は父の勤勞その身の武技。小姓組石川重左衛門養子五郎助は父の勤勞その身の武技學問。書院番石川數馬子造酒之助。西城書院番安藤監物養子左京は父の勤勞その身の學問。大番與頭木造清左衛門養子五郎兵衛。永田孫次郎子彌之助。蜂巢彦三郎子太郎。小姓組九鬼權之助子十郎左衛門。西城小姓組柘植清左衛門子長三郎。阿倍百助養子八之丞。能勢市兵衛養子龜三郎。書院番山本太左衛門養子太三郎。江坂孫三郎子孫之丞。石川齋宮子隼之助。高木左內養子伊三郎。松倉彦五郎養子岩之丞。中條平助子六左衛門。西城書院番小林金十郎養子永之助。佐々木五郎左衛門養子兵三郎は武技出精。大番與頭伊奈權八郎養子幾三郎。書院番一色靱負養子東之助は學問武技出精。西城書院番山岡鐵次郎養子宇之助は學問出精。小姓組五十嵐市十郎子岩五郎。前田五左

衛門子孫助。西城小姓組根來兵左衛門養子政吉。石川帶刀養子吉郎。書院番河野八左衛門子鐵次郎。松平善兵衛子吉太郎。杉浦庄兵衛子太輔。細井太郎左衛門子幸太郎は父の勤勞により。ともにめし出されて兩番のうちに入り。新番根來主計子新次郎。花井政藏子助太郎。大河原幾三郎養子乙吉。西城御腰物かた小笠原金兵衛子常五郎。大番山本金兵衛子吉之助。横瀨小左衛門子勝之助。八重盛次郎左衛門子兼三郎。國□又兵衛子半兵衛。高室四郎右衛門子金次郎。勝屋甚五兵衛養子主計。中島宇右衛門養子權之進は父の勤勞その身の武技。太田八十八養子友三郎は父の勤勞その身の學問。小十人與頭野尻金大夫養子太左衛門は父の勤勞その身の學問武技。新番諏訪新十郎子安五郎。西城新番木村次郎太郎養子善十郎。大番本間忠兵衛子文五郎。柳原佐兵衛養子吉之助。朽井仁右衛門子吉次郎。市川瀨兵衛子清次郎。大學熊五郎子新吉。遠山三大夫子四郎右衛門。永田市左衛門養子五左衛門。服部七兵衛子五郎吉。林田長次郎子市之進。小十人與頭鈴木善左衛門子善三郎。服部金左衛門養子熊藏。山中彦左衛門子源太郎。久留孫大夫子孫太郎。加藤權十郎子與一郎。西城小十人與頭津田半藏養子留五郎は武技出精。新番依田兵藏養子忠次郎。西城新番山本忠兵衛養子權十郎は學問武技出精。新番織田忠大夫子宗八郎。松波十左衛門子金一郎。西城新番鈴木作兵衛養子春之助。御腰物方久保繁三郎子安之助。大番小長谷藤十郎子榮次郎。守能宇兵衛子圖書。木室藤右衛門子庄七郎。齋藤八左衛門子忠三郎。小十人與頭柴田又十郎嫡孫幸三郎は父の勤勞により。共に召出されて大番に入り。小十人窪田善左衛門子新右衛門。西城小十人荒川權六郎養子勝太郎。志村庄左衛門子庄藏は父の勤勞其身の武技。小十人新籾源助子常次郎。葉山又左衛門子金次郎は學問出精。西城小十人鈴木左門子左膳は武技出精。小十人篠原彦四郎養子秀太郎。近藤求五郎（千蔵歟）養子信五郎。勝屋仲大夫子萬之助松本庄左衛門子德五郎。西城小十人細井繁之丞吉之丞。木部庫太子幸助は父の勤勞により。ともにめし出されて小十人に入る。○四日父死して家つぐ御家人十人。また御馬預鶴見清五郎子おなじ見習又吉。同じく家つぎてたゞちに父の職となる。○五日御誕辰の御祝として。高家。詰衆。奏者番。布衣以上。拜謁以上。上直のともがらへ席々にして餅酒を下さる。○六日下總國小見川領主内田伊勢守正純病によて致仕す。所領二萬石はその子長十郎につがしむ。この目付遠山金四郎景晋。勘定吟味役村垣左大夫定行松前西蝦夷地の事奉はりかしこに赴き。骨折りつとめしをもて黄金を下され。所屬のともがらおの〳〵賜物あり。小姓組早川内藏介老免して小普請に入り褒金を賜ふ。○七日大坂城定番本庄式部少輔任地に赴くによて。請ふまゝに金三千兩の恩貸あり。松平安藝守齊賢口切茶をたてまつる。○八日東叡山・浚明院殿靈廟に青山下野守忠裕代參す。寄合能勢伊豫守大坂船手頭となる。西城奥儒柴野彦助養子久四郎學問出精によて。めし出されて兩番のうちに入る。けふ令せらるゝは。近年引續きしは〳〵節儉の旨令せらるゝといへども。年

内田正純致仕

儉約令

大坂城代阿部正由、所司代若年寄、松平乘保、大坂城代、水野忠成、社寺奉行、若年寄に任ず

ごろ費用多く。そのうへ婚嫁の事打つゞきて輕からざる用達。又捨置がたき營作修理等も折重りて。とり〳〵たやすからざる事どもなれば。來る巳年より未年まで三年の間。猶又節縮の旨命ぜられぬ。よて此年限には拜借の事等すべて沙汰せらるまじきはいふまでもなし。されど時としては特旨もて命ぜらるゝ事あるまじきにもあらず。おのが（ママ）

いよ〳〵節儉を守り。猥に願ひがましき事なきやうに心得べしと觸らる。

○十日先手頭大林彌左衛門捕盜加役の事。來年の三月まで勤むべしと命ぜらる。○十二日三緣山　惇信院殿靈廟に牧野備前守忠精代參す。大坂城代阿部播磨守正由京所司代となり侍從に任ず。少老松平能登守乘保大坂城代となり從四位下にのぼる。奏者番兼寺社奉行水野出羽守忠成少老となる。よて播磨守正由。出羽守忠成轉職の事。布衣以上上直の輩へ。芙蓉間にして宿老列座して土井大炊頭利厚これを傳ふ。○十三日去りし九月東叡山　浚明院殿御法會濟ませられ。かつ日光門主御歸寺により。饗せられて猿樂あり。樂は龍田。兼平。杜若。望月。紅葉狩。狂言二番。二人袴。通圓なり。中入ありて門主は黑木書院にて饗せられ。僧正院家。その他別當僧中坊官家司等にいたりて席々にめして料理を下さる。○十四日三緣山　文昭院殿靈廟に御詣あり。○十五日月次の賀例の如し。西尾隱岐守忠善就封のいとま下さる。寄合松平晴三郎駿府城加番はてゝかへり謁す。大坂町奉行平賀信濃守赴任のいとま賜ふ。○十七日紅葉山御宮に松平伊豆守信明代參す。○十八日駒場野へ　兩御所放鷹として成らせらる。○二十日寄合伊澤主水火災巡視の事命ぜらる。東蝦夷地寺院の事によて。寺社奉行所屬のもの二人つかはさる。○廿一日濱の庭園に成らせらる。重陽の御祝として時服たてまつりし三家の方々はじめ。萬石以上のともがら御内書をたまひ。　大納言殿より奉書をわたさる。○廿三日去りし廿一日御成のをり鳥射し番士一人時服を賜ふ。○廿四日東叡山　深德院殿靈牌所に松平伊豆守信明代參し。池上本門寺　御墓には御側平岡美濃守頼長代參す。東叡山　孝恭院殿靈廟に少老水野出羽守忠成代參す。この日琉球人登城のをり。萬石以上以下とも從僕その他の事命せらるゝむねあり。○廿五日中奥小姓大久保伊賀守病免す。○廿七日小笠原伊豫守忠固封地到着を謝して。使して二種一荷をたてまつる。大番頭竹中遠江守病免して寄合となる。この日　大納言殿には淺草のほとりへ放鷹として成らせらる。○廿九日松平甲斐守保光封地到着を謝して。使して二種一荷をたてまつる。○晦日大番山田甚五郎老免して小普請に入り褒金を賜ふ。又去りし廿八日御成のをり鳥射し番士一人時服を下さる。○十一月朔日月次の賀例の如し。藤堂和泉守高兌家つぎしを謝して。備中國幸久の刀。馬一疋。綿。黃金をたてまつりて見えたてまつる。稻葉丹後守正備又同じ。馬一疋。錦。黃金をたてまつる。和泉守高兌家人藤堂采女。藤堂隼人。藤堂杢助。藤堂外記。中川藏人。横濱内記。内多武左衛門。丹後守正備家人田邊□左衛門。松尾多宮。塚田杢助拜謁す。又和泉守高兌に上意を傳へら

る。松平薩摩守齊宣參覲す。使番本多丹下。書院番小出主膳は大坂目付はて〻歸り謁す。源久公治保卿小祥忌によて。岡部因幡守長貴御使して水戸に檜重。おなじき鶴千代のかたに干菓子をおくらせらる。○二日大川のほとりへ成らせらる。○三日西城御側岩本内膳正正利子小普請組支配石見始め。父死して家つぐもの七人。寄合醫松平長庵子長運又同じ。○四日水戸宰相のもとにけさ仙石大和守御使して御鷹の鶴を贈らせらる。よて謝してまうのぼらる。去りし二日御成の折烏射し番士一人時服を賜ふ。○五日濱の庭園に成らせらる。　大納言殿にもまた同じ。○六日尾張中將のもとに高井但馬守清寅御使して御鷹の鶴を贈らせらる。よて謝して使まいらせらる。○七日大番河内猪三郎養子乙吉武技出精によて。めし出されて大番に入る。去りし五日御成のをり烏射し番士二人時服を賜ふ。○八日東叡山　浚明院殿靈廟に土井大炊頭利厚代參す。森川兵部少輔俊知。書院番頭本多大隅守正房ともに大番頭となる。○十一日京所司代阿部播磨守正由任地に赴くによて。請ふまゝに金壹萬兩恩貸あり。○十二日三緣山　惇信院殿靈廟に青山下野守忠裕代參す。大坂城代松平能登守乘保任地に赴くによて。請ふまゝに金一萬兩の恩貸あり。けふ天守番の頭川澄新五郎正智職ゆるされ小普請に入られ家に籠らしめらる。こは天守番山口幸十郎某が悴銕之丞を青木力藏某が養子とせしが。後に彼が持參金の事より。幸十郎と力藏口論せしが。力藏疵請しより中風の病にて死しけるを。幸十郎が親家はからひて病と稱し。七男三吉を

惣領銕之丞と僞り。家つがせん事こひ申せしをりさま〻の風說あるをも糺問せず。長官より二度まで達せし趣もあれば。幸十郎が病の樣をも見屆け。銕之丞をも呼寄て糺問すべきに。その心も付ず。親族どもしゐてこふ旨に任せて。なほ家繼せん事を申請ひ。猶又長官より令する節に至り。査撿こひ奉りしは心屆ざる故なり。こたび書面もて尋ねらるゝにも。心得違の答もありとの御咎なり。よて青木力藏某を始め。斬に處し遠島せられ追放され家にこもらしめらるゝもの二十七人なり。○十五日月次の賀例の如し。大村上總介純昌參覲す。稻葉丹後守正備はじめて就封の暇給ひ御馬を下さる。大坂城代松平能登守乘保子貞太郎。秋月山城寺種德子榮三郎。六鄕伊賀守政速子勝三郎初見したてまつる。大奥にして峯姫君御紐解の御祝あり。○十六日宿老松平伊豆守信明。牧野備前守忠精。土井大炊頭利厚。青山下野守忠裕。安藤對馬守信成。京所司代阿部播磨守正由。大坂城代松平能登守乘保に。大奥にして御鷹の雁を下さる。奥州馬牽き入れの事勤めし松平政千代が家人等時服また銀子を下さる。鷹匠頭戸田五助子和三郎父の勤勞をもてめし出されて。その見習命ぜられ祿三百苞を賜ふ。松平薩摩守齊宣琉球人召連れて參府によて。伊藤河内守御使として米二千苞をつかはさる。○十七日紅葉山　御宮に牧野備前守忠精代參す。日光門主使して口切茶を進らせらる。○十八日肥前國平戸城主松浦壹岐守清病によて致仕す。所領六萬千七百石は其子肥前守熙につがしめらる。この清は

琉球使登城

松平上總介齊政。其妻うせしかば。諏訪因幡守忠蕭して問せらる。○十九日小姓組番頭室賀壹岐守正賴書院番頭となり。寄合室賀兵庫小姓組番頭となる。○二十日寄合青木縫殿助病によて中川番を免さる。○廿一日三河島の邊へ放鷹として成らせらる。新番井坂孫兵衛老免して小普請に入り褒金を賜ふ。○廿二日吹上の庭園に成らせられ南部馬御覽あり。高家六角越前守廣孝其精勤をもて時服黃金を下さる。○廿三日琉球人登城により。溜詰。普第大名。高家。詰衆。奏者番。菊間緣頰詰。同じき子ども。布衣以上。法印法眼の醫員までまうのぼる。大廣間に出給ひて。まづ松平薩摩守齊宣おなじき豐後守齊興謁見し。さて中山王その繼統により。讀谷山王子をして太刀一腰。馬料銀五十枚。中央卓二脚。石入形二體。籠一對。芭蕉布三種百五十端。太平布百疋。久米島綿百把。燒酎五壺を献る。又讀谷山王子自己見え奉りて。大官香壽帶香共に十把。芭蕉布二種共に十端。泡盛酒二壺を献る。次に薩摩守齊宣家人河田伊織拜謁す。○廿四日東叡山　孝恭院殿靈廟に少老植村出羽守家長代參す。去りし廿一日御成のをり鳥射し番士二人時服を下さる。西城留守居安部信濃守同じ旗奉行となり。同じ書院番村上主殿同じ徒士頭となる。○廿五日吹上の庭園に成らせられ。それより一橋門外閑地に赴かせらる。淺草本所米廩藏米の事によて。勘定吟味役はじめその事にあづかりし輩賜物あり。奥州馬牽入の事つとめし南部大膳大夫利敬の家人等時服銀子を下さる。此日大奥にして少老植村駿河守家長。水野出羽守忠成。井伊兵部少輔直朗。京極備中守

松平直紹致仕

本多康完卒

高久。堀田攝津守正敦青山大膳亮幸完。小笠原近江守貞溫おの〳〵御鷹の雁を下さる。○廿七日琉人音樂を聞しめさる。よて溜詰。普第の大名。高家。詰衆。奏者番。菊間緣頰詰。同じき子ども。布衣以上。法印法眼の醫員等まうのぼる。大廣間へ　兩御所出たまひて。同じき下段に松平薩摩守齊宣。同じき豐後守齊興。緣頰に讀谷山王子着座ありて音樂はじまる。はて〻琉人は殿上間に退く。薩摩守齊宣。豐後守齊興謁見す。はて入らせ給ひて後。大廣間二之間にして。こたび中山王代かはるによて。遠路のところ使を參らせよろこびおぼしめすによて。中山王に白銀五百枚。綿五百把をつかはさる〻よし。宿老列座して土井大炊頭利厚これを傳へ。讀谷山王子に白銀二百枚。時服十を賜はり。從者總中へ白銀三百枚。けふ音樂せし伶人共へ時服三づ〻を下さる。中山王へのつかはされ物の目錄をよむ。宿老よりの返簡は殿上間にして大目付これを渡す。薩摩守齊宣。豐後守齊興。讀谷山王子。同じき從者。薩摩守齊宣の家人等にいたりて。席々にして菓子吸物御酒を下され。又下官へは兩所にして强飯を下さる。○廿八日濱の庭園に成らせらる。越後國絲魚川領主松平日向守直紹病によて致仕す。所領一萬石は其子兵部少輔直益に襲しむ。此直紹は

○廿九日寒に入りしかば。日光門主三家の方々使し。溜詰。所司代。大坂城代。高家。詰衆。奏者番まうのぼり御けしきうかゞふ。近江國膳所城主本多隱岐守康完卒す。嗣子なし。請ふまゝにその弟定吉康禎をもて養子とし。遺領六萬石をつがしむ。この康完

は

寄合藤堂駒五郎養子主馬。竹本隼人養子西城小姓組直八郎。鳥居權之助養子小姓越前守。小出右京亮子又五郎。松平宇右衛門養子乙次郎はじめ。父致仕して子家つぐもの二十一人。隼人。權之助はおの〳〵養老料を下さる。○晦日去りし廿八日御成のをり鳥射し番士一人時服を下さる。增上寺方丈使して寒氣の御けしきをうかゞはる。○十二月朔日月次の賀例のごとし。松平紀伊守はじめ參覲のもの二人。大坂船手頭能勢伊勢守赴任のいとま下さる。その子帶刀初見したてまつる。吳服師茶屋四郎次郎子文之丞また同じく初見したてまつる。小姓組榊原隼之助徒士頭となり。小納戸花村忠兵衛は船手頭となる。役料はそのまゝに下さる。○二日尾張中將まうのぼらる。御座所にして御對面あり。宰相に任ぜらるゝむね仰せ出さる。午刻すぎてのち一橋門外の閑地に成らせらる。○三日宿老土井大炊頭利厚琉球人の事奉はりしによて。御前にして時服をたまふ。また歳暮の賜物例のごとし。○四日小松川のほとりへ放鷹として成らせらる。父死して家つぐ御家人八人。西城書院番與頭戸田市郎兵衛病免して寄合となる。石尾主馬御使して松平越前守治好父致仕左兵衛督重富に御鷹の鶴をおくらせらる。○五日歳暮の賜物例のごとし。○六日寒氣を問はせられて。使して東叡三緣兩山に檜重をおくらせらる。去りし四日御成のをり鳥射し番士二人時服を下さる。高家宮原長門守義周病によて請ふまゝに職ゆるさる。寄合堀田主税同じ肝煎となる。この日

井上正紀卒

内藤政和卒

新番頭筧越前守爲規の組與頭小野次郎兵衛。平番二人とがめられて小普請に入り。御前をとゞめらる。よて越前守爲規坐せられて。御目通りを遠慮せしめらる。○七日下總國高岡領主井上壹岐守正紀卒す。遺領一萬石はその子瀧吉正瀧に繼がしむ。この正紀は

大目付伊藤河内守忠移。神保佐渡守長光。目付仙石次郎兵衛。黑川與市琉球人參府のことつとめしをもて時服をたまふ。屬吏等賜物あり。おなじ事によて奥右筆青木忠左衛門。間宮平次郎黄金を下さる。戸川大次郎御使して。松平薩摩守齊宣に御鷹の鶴をおくらせらる。この日吹上の庭園にして騎射御覽あり。○八日東叡山　浚明院殿靈廟に松平伊豆守信明代參す。きのふ騎射御覽ありしをもて。その師寄合小笠原平兵衛常方に時服を賜ひ。射手の弟子ども二十五人黄金を下さる。○九日尾張宰相まうのぼられ。馬一疋。卷物。黄金をさゝげらる。御座所にして御對面あり。また牧野備前守忠精は宰相陪侍の家司瀧川豐後守に口宣の奉書をわたさる。日向國延岡城主内藤備後守政和卒す。嗣子なし。請ふまゝにその弟龜之進を養子とし。遺領七萬石をつがしむ。この

○十日藤堂和泉守高兌。藤堂撤三郎をめして。故藤堂和泉守高嶷請ひおきしがごとく。これまで和泉守内分の地を。撤三郎につがしめらる。歳暮の賜物又同じ。○十一日紀伊中納言。封地にて賜物の鷹もて羽合ありし鶴一羽を使してたてまつらる。○十二

目三緣山　惇信院殿靈廟に土井大炊頭利厚代參す。普請奉行小長谷和泉守政良。目付松平伊織。勘定吟味役岡松八右衛門は上水道路のこと奉はりしをもて。黃金また時服をそへて賜ふ。歳暮の賜物またおなじ。西城小姓組與頭小菅新五左衛門病免して寄合となる。○十三日濱の庭園に成らせらる。掃塵例のごとし。水尾のかた〳〵。日光門主。增上寺方丈へ使して八代密柑をおくらせらる。水戸宰相は謝してまうのぼられ。尾張中將は同じく使參らせらる。○十四日西城書院番石野忠右衛門老免して小普請に入り褒金を賜ふ。寄合阿部越前守中川番を命ぜらる。日光門主近々御登山により。高家中條河内守信義御使して。小袖綿子おの〳〵二枝柿一をおくらせらる。番醫奈須玄竹は門主にそひて參るべしと命ぜらる。○十五日月次の賀例のごとし。堀田相模守正時はじめ參覲のもの九人。榊原越中守また同じ。内藤龜之進。本多定吉康禎。藤堂徹三郎。井上瀧吉正瀧おの〳〵家つぎしを謝して見えたてまつる。定吉康禎の家人本多半兵衛。本多雄右衛門。保田六右衛門拜謁す。また龜之進。定吉康禎。撤三郎は馬に黃金卷物また綿そへてたてまつり。瀧吉正瀧は黃金卷物をたてまつる。使番雨宮權左衛門駿府目付はて〻かへり謁す。勘定奉行石川右近將監忠房は西城留守居となり。同職上座を命ぜらる。小普請奉行水野若狹守忠通は勘定奉行となり。公事かたを命ぜらる。一橋邸用人丸毛甚三郎は船手頭となる。○十六日井伊掃部頭直中子辨之進直亮は從四位下侍從に叙任し玄蕃頭と改め。從五位下藤堂和泉守高兌は從四位下にのぼる。

勘定奉行石川忠房西丸留守居に轉じ、小普請奉行水野忠通勘定奉行に任じ公事方となる

又從五位下に叙する者十七人。本多彦三郎助利は豐後守。安部安三郎信操は攝津守。松平左七郎乘羨へ縫殿頭。米津勘兵衛政懿は伊勢守。一柳兵庫頼親は因幡守。内田長十郎正肥は近江守。戸田越前守忠翰子銕之丞忠延は日向守。六鄕伊賀守政速子勝三郎政芳は兵庫頭。小姓組番頭柴田七九郎は河内守。西城小姓組番頭富田中務は甲斐守。日光奉行馬場大助は讃岐守。　御臺所御用人永田與左衛門は備後守。小姓松平一太郎は河内守。西城小姓青山三四郎は能登守。小納戸頭取大井庄三郎は丹波守。小納戸喜多村斧三郎は石見守と改む。一人は紀伊中納言請はるゝによて。其家司の内一人叙せらるゝむね。家司村上伊勢守めしてつたへらる。奥醫堀本一甫は法眼になる。布衣の士に加はるもの十三人。火消役岡田將監。神保右近。西城目付三宅市右衛門。使番牧助右衛門。石尾主馬。小姓組與頭川口源右衛門。向井六左衛門。西城裏門番の頭本多橘五郎。徒士頭榊原隼之助。小笠原重左衛門。西城徒士頭村上主殿。小十人頭本多嘉平治。二丸留守居三枝甚四郎なり。日光門主近々御登山によりまうのぼられ。西湖間にして饗せられ。御座所にて御對面あり。高家大澤下野守基季おなじ肝煎命ぜらる。藩翰譜書つぎの事つとめし奥右筆組頭近藤吉左衛門はじめ。奥右筆三人。表右筆一人。奥右筆所詰二人。その他この事にあづかりし輩賜物おの〳〵差あり。この編集は先年新井筑後守君美が進呈せし藩翰譜の書繼にて。上は延寶八年に起り。下は天明六年に終る百七年の間。萬石以上の譜傳にて。寛政元年九月奥右筆組頭格瀨名源五郎貞雄。

藩翰譜續編成り賞を行ふ

織田秀綿卒

寄合儒者岡田清助恕に命ぜられしが。同六年清助恕代官命ぜられしよりは。右筆所にて編輯。續編附錄とも十二卷。系圖備考附錄とも十一卷。すべて廿三卷卒業せしなり。

歳暮の賜物又同じ。○十七日紅葉山　御宮　靈廟御詣天氣によてなし。　御宮に土井大炊頭利厚代參す。日光門主使して歳暮の御祝として二種一荷を進らせらる。十八日大和國柳本領主織田大和守秀綿卒す。その子芳次郎信陽をして遺領一萬石をつがしむ。この

歳暮の賜物また同じ。○十九日付松平伊織日記の事奉はりしによて黄金を下さる。稲葉丹後守正備封地到着を謝して使して二種一荷をたてまつる。○二十日大番頭溝口攝津守病免す。寄合松平主税。大草主膳共に火災巡視の事命ぜらる。○廿一日歳暮の御祝として。三家のかた〴〵始め。萬石以上のともがら使して時服をたてまつる。

大納言殿へもおなじ。二丸火の番城戸兵藏老免して褒銀あり。諸番より新番にうつるもの十一人。○廿二日臨時朝會あり。けふ初見したてまつるもの。小姓松平安房守子啓次郎。小姓組與頭川口源右衛門養子助十郎。西城小納戸長谷川平藏子平三郎。松平頼母子内記。天野彦左衛門子求馬。細井佐次右衛門子百助。二丸留守居伊東李左衛門養子彰次郎始め。其他尚多し。小姓組番頭小笠原若狹守信成は御給仕肝煎の事命ぜらる。駿府勤番組頭横山久左衛門は留守居番となり。西城書院番梶川庄五郎は同じ與頭となる。この日松平久之助君かくれさせたまふ。よて　兩御所半減の御喪居あり。音樂を停めらるゝ事三日。こは一橋治濟卿の第八男にして。寛政十年十二月十四日生れさせたまふ。御母は丸山氏。けふ九歳にして卒せられしなり。○廿三日久之助君の事によて。水戸紀伊のかた〴〵使まいらせ。溜詰。高家。詰衆。奏者番。諸番頭。諸物頭。布衣以上まうのぼり御けしきうかゞふ。同じ事によて。本多因幡守御使して尾張中將を問はせらる。　大納言殿よりも御詞をそへらる。○廿四日御制中御けしきうかゞひ昨日の如し。日光山神橋改架。　靈廟二天門その他修復の事うけたまはりしともがら賜物あり。○廿五日御制中御けしきうかゞひとして。水戸宰相はじめ。高家。詰衆。芙蓉間。諸職人まうのぼる。また紀水のかた〴〵使して菓子をまいらせらる。御側本郷大和守泰行御使して。その制中を問はせられて。一橋大納言治濟卿に氷糖一壺。民部卿齊敦卿に砂糖漬一壺を贈らせられ。又白須甲斐守政雍御使して。民部卿齊敦卿に香銀十枚をつかはさる。松平佐渡守。秋月山城守種德。稲葉伊豫守來る春參向の公卿馳走のこと命ぜらる。留守居永見伊豫守子專之丞は召出されて中奥小姓となり。小普請成瀨小太郎はおなじ番となる。○廿六日おなじ御けしきうかゞひとして。諸番頭。諸物頭。布衣以上まうのぼる。留守居番櫻井藤四郎養子常之丞。徒士頭稲葉主税子大學。寄合水野左衛門子太郎次。船手頭村上三郎右衛門養子敬藏。金田傳右衛門子新左衛門はじめ。父死して家つぐもの三十人。小姓組番頭室賀兵庫は御前御給仕の事命ぜらる。西城旗奉行飯田能登守易信養子大次郎。おなじ徒士頭朝倉勘四郎子

善太郎召出されて小納戸となる。○廿七日この節からの事により。けふより　兩御所御喪をとかる。よて溜詰。高家。詰衆。奏者番。布衣以上まうのぼり。三家のかたゞ〳〵使して御けしきうかゞはる。また尾張宰相は制中御たづね御使ありしを謝して使まいらす。作事奉行蜂屋美濃守 成定。目付佐野宇右衛門。勘定吟味役金澤瀨兵衛は玄關殿上間虎間。その他修復のこと奉はり。作事奉行有田播磨守貞勝は西城御休息所小座敷。その他修復のこと奉はりしによて。時服また黃金そへて賜ひ。所屬のともがら賜物差あり。○廿八日月次の賀例のごとし。歲暮の拜賀またおなじ。西城小姓組久津見又助おなじ與頭となる。また從五位下に叙するもの二人。本多定吉康禎は下總守。小姓組番頭室賀兵庫は信濃守とあらたむ。布衣の士に加へらるゝ者二人。久須美又助。書院番與頭梶川庄五郎なり。○廿九日雪降りしかば。三家のかたゞ〳〵使して御けしきうかゞはる。

文恭院殿御實紀卷四十二

〔原本欠、而西蝦夷永代上地、并魯西亞船蝦夷亂妨之事、宜參照第二篇卷末附載史料〕

續德川實紀第一篇畢

明治三十八年五月十日印刷
明治三十八年五月十五日發行

發行者　東京市京橋區彌左衛門町七番地
合名會社　經濟雜誌社

右代表者　東京市本郷區湯島新花町卅九番地
社員　西島政之

印刷者　東京市京橋區西紺屋町廿六七番地
株式會社秀英舍々員　佐久間衡治

印刷所　東京市京橋區西紺屋町廿六七番地
株式會社　秀英舍

H 7638